

[illegible]

コンクリート工事

① コンクリートの製法等

コンクリートの種類
(6.2.1) (表6.2.1)
Ⅰ 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
Ⅱ 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)
○普通コンクリート (6.2.1~4) (表6.2.2)
・軽量コンクリート (6.2.1) (6.2.10)
(特記事項は、「9. 軽量コンクリート」に示す)
・建築基準法第37条第二号の規定に基づき認定を受けたコンクリート (6.2.1)
構造体強度補正值 (6.3.2)
※標準仕様書表6.3.2による
表6.1 構造体コンクリート

	Fc	SL	W	記 号	備 考
普通 コン クリ ート	・18			1	
	・21			2	
	○27	15	185	3	消防棟
	○27	18	185	4	消防棟
	○24	15	185	6	訓練棟
	○24	18	185	7	訓練棟
軽量 コン クリ ート	・			8	
	・			11	
	・			12	

種類 (6.3.1)
表6.2 セメント

種 類		使 用 箇 所
○ポルトランドセメント JIS R 5210	○普通	
	・早強	
	・中熱	
	・低熱	
・高炉セメント JIS R 5211	・A種 ※B種	
・シリカセメント JIS R 5212	・A種 ・	
・フライアッシュセメント JIS R 5213	・A種 ※B種	
・エコセメント JIS R 5214	・普通 ・	
・	・	

・再生骨材Hを使用する適用箇所 (6.3.1)
湿潤養生の期間 (6.7.2)
※JASS 5 鉄筋コンクリート工事 2022による () 日以上
型枠の最小存置期間 (6.8.4)
※JASS 5 鉄筋コンクリート工事 2022による ()

② セメント

③ 骨材

フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材 (6.3.1)
・使用する 適用箇所 () (6.3.1)
アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※A ・B (6.3.1(2) (4) (a) に於いては②)

④ 混和材料

○混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書 6.3.1(4) (a) による ()
○混和材 (6.3.1)
混和材の種類
※標準仕様書 6.3.1(4) (b) による ()
標準仕様書6.3.2(4) (f) の①～③以外の混和材料 (6.3.2)
表6.3 混和材料

混 和 材 料	記 号	備 考
○高性能AE減水剤	A	
・膨張剤 (材)	B	
・躯体防水剤 (材)	C	
・防せい剤	D	

AE減水剤は全ての構造体コンクリートに適用する (高性能AE減水剤を適用する場合は適用しない)

⑤ 打継ぎの位置、
ひび割れ誘発目地、
打継目地

⑥ コンクリートの仕上り

(この項目特記なき限り建築工事特記仕様書による)

⑦ 打増し厚さ
(打放し仕上げ部)

⑧ 型枠

⑨ 軽量コンクリート

適用箇所 (6.10.1)
・図示による ()
種類 (6.10.1) (表6.10.1)
※1種 ・2種
気乾単位容積重量
・1.8~2.1 t/m³ () t/m³
スランプ
※21cm ()

⑩ 寒中コンクリート

適用期間 (6.11.1)
・図示による ○ (12/7~2/17)
構造体強度補正值 (S) (6.11.2)
※標準仕様書6.11.2(3) (7) による ・積算温度を基に定める ()

⑪ 暑中コンクリート

構造体強度補正值 (S) (6.12.2)
※N/m² ・ ()

2 マスコンクリート

適用箇所 (6.13.1)
・図示による ()
・部材断面最小寸法が壁部材で80cm以上、マツト状部材で100cm以上かつセメントの水和熱による温度上昇で有害なひび割れが入るおそれがある部分に適用する。
ひび割れ
温度解析等により有害なひび割れが発生しないことを確認する。
有害なひび割れが発生しないことの確認の後、監督職員の承認を受けることで
中熱ポルトランドセメント以外とすることができる。
セメントの種類 (6.13.2)
・中熱ポルトランドセメント
・普通ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・シリカセメント
混和材料 (6.13.2)
・混和剤
混和剤の種類
※標準仕様書6.13.2(2) (7) による ()
混和材の種類
※標準仕様書6.13.2(4) による ()
スランプ (6.13.2)
※15cm ()
構造体強度補正值 (s) (6.13.2)
※標準仕様書表6.13.1による ()

13 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
※普通コンクリート ()
設計基準強度 ※表6.4による (6.14.1)
スランプ ※表6.4による (6.14.1)
適用箇所 (6.14.1)
※標準仕様書 6.14.1(4) による ・図示による ()
・標準仕様書表6.2.1以外のコンクリートを用いる場合 () (6.14.1)

14 流動化コンクリート

適用箇所 ・図示による () (6.15.1)

⑫ コンクリートの単位
水量測定

⑬ その他

○パラベット立上り
がコンクリートは原則として一体打ちとする。 (DK) (6.5.1)

実施要領
(1) 単位水量の測定は、150㎡に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4) (a) による。
(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1) 測定した単位水量が、計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。
2) 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打捨する。
その後設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3) 設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4) 3) の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4) 単位水量管理についての記録を書面 (計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

表6.4 雑コンクリート

種 類	Fc	γ	SL
土間コンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	※15 ・18
ラップルコンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	※15 ・18
街きよ、緑石、側溝類の コンクリート及びこれらの 基礎コンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	※15 ・18
間知石積み基礎及び 表込めコンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	※15 ・18
捨コンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	○15 ※18
機械室等で用いる配管埋設用 コンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	○15 ※18
防水層の保護コンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	○15 ※18
コンクリート舗装の コンクリート	※18 ・21	※2.3 ・	※15 ・18

消防庁舎棟

コンクリート記号 (表6.1) 混和材料記号 (表6.3)

RFL ▽	パラベット	4	A
	2階以上	4	A
1FL ▽	1階スラブ	4	A
	基礎・基礎梁 底壁	3	A

訓練棟

コンクリート記号 (表6.1) 混和材料記号 (表6.3)

RFL ▽	パラベット	7	A
	2階以上	7	A
1FL ▽	1階スラブ	7	A
	基礎・基礎梁	6	A

マスコンクリートの混和材料は
12 マスコンクリートによる

7 鉄骨工事

鉄骨製作場の加工能力 (7.1.3)
鉄骨製作場認定制度に基づき、指定性能評価機関 (株) 日本鉄骨評価センター又は、(株) 全国鉄骨評価機構) の評価を受け、大臣認定を取得した下記のグレード以上の鉄骨製作工場とし、事前に監督職員の承諾を受ける。
・Sグレード ・Hグレード ※グレード ・Rグレード () (7.1.3) (7.1.4)

③ 鉄骨製作工場

④ 施工管理技術者

⑤ 鋼材

材質等 (表7.11による) (7.2.1)
表7.1 鋼材種及び使用箇所

規 格	鋼 材 名	使 用 箇 所
一般構造用圧延鋼材 JIS G 3101	○SS400 ・ ・	SS490 ・SS490 ・
溶接構造用圧延鋼材 JIS G 3106	・SM400A ・	・SM490A ・
建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136	・SN400A ・SN400B ・	・SN490B ・
溶接構造用遠心力鋳鋼管 JIS G 5201	・SN490C ・	・
建築構造用冷間成形角形鋼管 JIS G 5201	・SCW490-CF ・	・
一般構造用角形鋼管 JIS G 3466	・BCR295 ・BCP235	・UBCR365 ・BCP325
建築構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3475	・STKR400 ・	・STKR490 ・
一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444	・STK400 ・	・STK490 ・
一般構造用軽量形鋼 JIS G 3350	・SSC400 ・	・
建築構造用TMCP鋼板 JIS G 3350	・TMCP325B ・TMCP355B	・TMCP325C ・TMCP355C
建築構造用TMCP鋼板	・	・
・	・	・

JIS規格品又は建築基準法に基づく指定もしくは認定を受けたものとする。
鋼材は高炉材とする。ただし、下記の適用部位は、電炉材とすることができる。 (DK)
電炉材の適用部位 (電炉材の板厚は40mm以下とする)
・柱
・大梁
○大梁中央部 (ポルト接合の場合)
※二次部材 (小梁、間柱、耐震梁、母屋、鋼縁など)
※スライスプレート ※ガセットプレート (完全溶け込み溶接部を除く)
・ダイアフラム ・ベースプレート
※水平ブレース ・鉛直ブレース ・その他 () (DK)
以下に示す部位に電炉材を適用する場合は、表7.2を満足する製品に限る。
・柱
※大梁 (ポルト接合の場合大梁端部) ・大梁中央部 (ポルト接合の場合)
※通しダイアフラム ・左記以外のダイアフラム ・ベースプレート
・鉛直ブレース ・その他 ()
・全部位に適用しない

表7.2 化学成分及び機械的性質

種類の記号	C	Si	Mn	P	S	Cu	Cr	Sn	Ceq	Pcm
SS400	≤0.20	≤0.35	≤1.4	≤0.03	≤0.015	≤0.4	≤0.25	≤0.04	-	-
SM490A	≤0.18	≤0.40	≤1.6	≤0.03	≤0.013	≤0.4	≤0.25	≤0.04	≤0.44	≤0.29
SN400B	≤0.20	≤0.35	0.6~1.4	≤0.03	≤0.015	≤0.4	≤0.25	≤0.04	≤0.36	≤0.26
SN400C	≤0.18	≤0.35	0.6~1.4	≤0.02	≤0.008	≤0.4	≤0.25	≤0.04	≤0.36	≤0.26
SN490B	≤0.18	≤0.40	≤1.6	≤0.03	≤0.013	≤0.4	≤0.25	≤0.04	≤0.44	≤0.29
SN490C	≤0.18	≤0.40	≤1.6	≤0.02	≤0.008	≤0.4	≤0.25	≤0.04	≤0.44	≤0.29

機械的性質：シャルビー衝撃値 70J以上 (ただし、SS400は除く)
形状及び寸法 (7.2.1)
・図示による () (7.2.10)
板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験
・行う (適用箇所：) ※行わない

高力ボルトの種類 (7.2.2)
表7.3 高力ボルト

種 類	使 用 箇 所
○トルシア形高力ボルト (S10T)	全般
○JIS形高力ボルト 2種 (F10T)	トルシア形が適用出来ない部分
○溶融亜鉛めっき高力ボルト 1種 (F8T) 相当	溶融亜鉛めっき鋼材
・超高力ボルト (SHTB F14T) 相当	図示
・溶融亜鉛めっき超高力ボルト (12G SHTB) 相当	図示

JIS・JSS規格品又は建築基準法に基づく指定もしくは認定を受けたものとする。
ボルトの寸法 (7.2.2)
ねじの呼び ・図示による () (7.3.2)
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1 縁端距離及びボルト間隔) ・
摩擦面の性能及び処理 (7.4.2)
・すべり試験
試験の方法等 (7.4.2)
※すべり耐力試験 ・すべり係数試験 () (7.4.2)
溶融亜鉛めっき面以外の摩擦面の処理方法 (7.4.2)
○標準仕様書7.4.2 (7) (i) による
溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法 (7.12.5)
○プラスト処理
○りん酸塩処理 (すべり耐力等の確認はすべり試験による)
注) 上記以外の処理を行う場合は、すべり係数試験を行う。
溶融亜鉛めっきの裏地ごしらえは、JIS H 9124溶融亜鉛めっき作業指針による。
JIS形高力ボルトの締付け (本締め) (7.4.7)
ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示による () (7.3.8)
母屋又は鋼縁の取付けに使用するボルトの孔径
※ねじの呼び径+1.0mm ()

⑤ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
※標準仕様書表7.2.3による () (7.2.3)
座金 (7.2.3)
○標準仕様書7.2.3(4) による () (7.2.3)
ボルトの形状及び寸法 (7.2.3)
ねじの呼び ○図示による () (7.3.2)
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1 縁端距離、ボルト間隔) () (7.3.8)
母屋又は鋼縁の取付けに使用するボルトの孔径
※ねじの呼び径+1.0mm ()

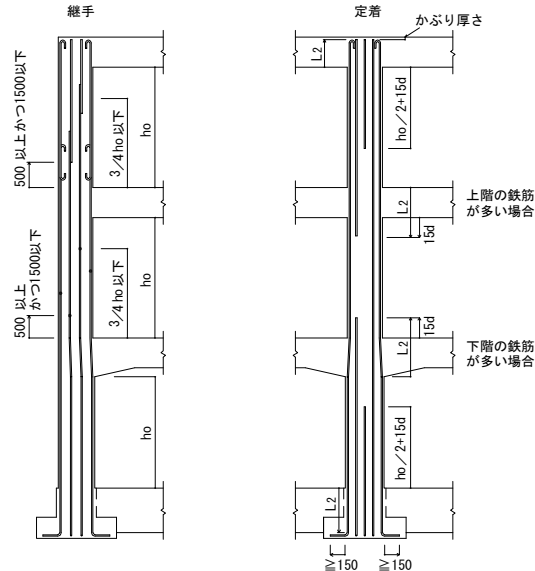
図6.1 構造体コンクリートの適用区分

[illegible]

7. 柱

A. 柱主筋の継手、定着及び余長

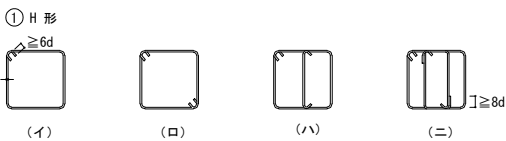
- (1) 継手中心位置は、梁上端から 500mm 以上、1500mm 以下かつ 3/4 ho 以下とする。
(2) 継手、定着及び余長は、下図による。



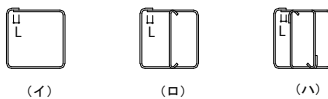
- 注) 1) 2. (1)で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 隣合う継手の位置は3. Bによる。
3) 継手長さは、図示による。

B. 帯筋の形状

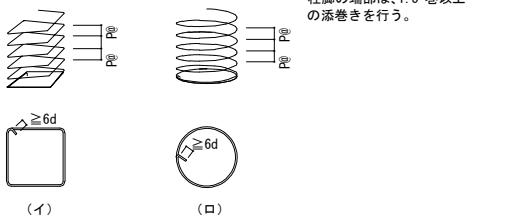
- (1) 帯筋組立ての形はH形とする。
(2) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(3) 溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
(4) フック及び継手の位置は、交互とする。



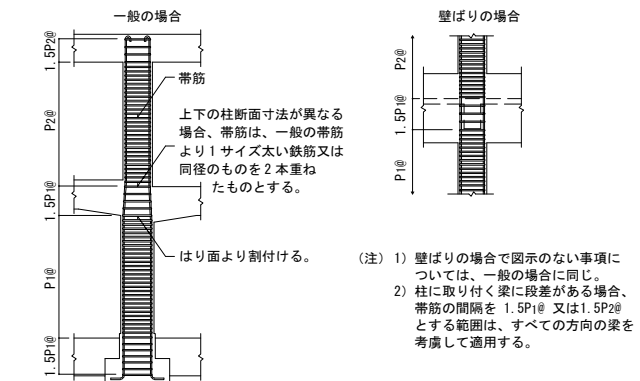
- ② W-I形 (注) 溶接は、鉄筋の組立て前に行う。



- ③ SP形 (スパイラル筋) (注) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。



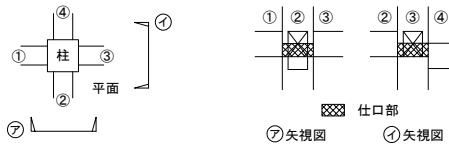
C. 帯筋の割付け



- (注) 1) 壁ばりの場合で図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2) 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、すべての方向の梁を考慮して適用する。

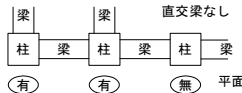
D. 柱の仕口部 (柱・梁接合部)

- (1) 仕口部帯筋は、図示による。図示なき場合は、仕口部帯筋の帯筋比は0.3%以上とする。ただし、基礎梁接合部は0.2%以上とする。
(2) 柱の仕口部の範囲は図示による。図示なき場合は、柱に取り付け全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。



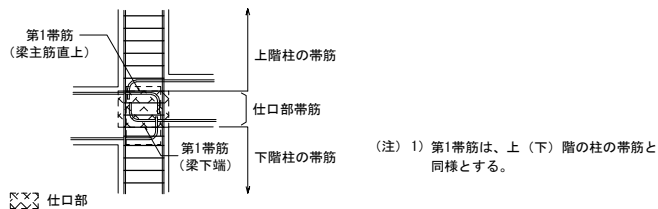
柱の仕口部の範囲

- (3) 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は図示による。図示なき場合は、仕口部帯筋は適用しない。



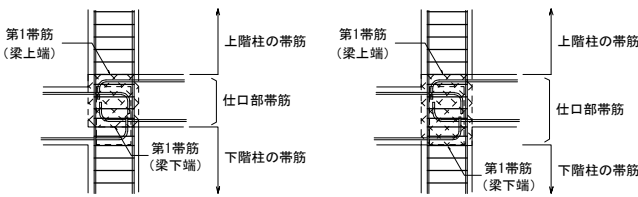
柱仕口部範囲の有無

- (4) 柱の仕口部帯筋の範囲は、下図による。



仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

- (5) 上(下)階柱の帯筋比より、仕口部帯筋比が多い場合は7. D. (4)によらず、下図による。ただし、上階柱の帯筋が下階柱の帯筋より多い場合は、図示による。



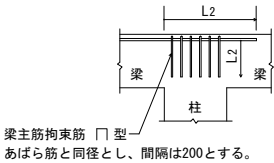
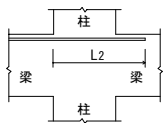
仕口部帯筋が上階柱帯筋より多い場合

仕口部帯筋が下階柱帯筋より多い場合

8. 大梁

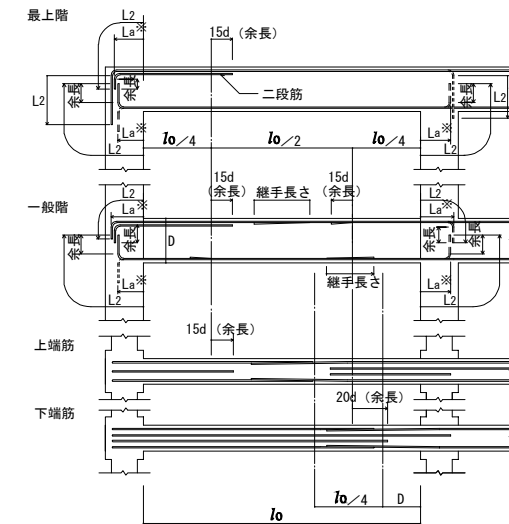
A. 大梁主筋の継手及び定着

1. 一般事項
(1) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(2)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず、梁内に定着する場合は、右図による。
(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。なお、定着の方法は、3. C. (2)による。
上端筋 - 曲げ降ろす。
下端筋 - 原則として曲げ上げる。
(3) 梁主筋の引き通し、折り曲げ定着にかかわらず最上階のT形接合部には、梁主筋拘束筋を配筋すること。
(4) 段違い梁は、右図によることができる。



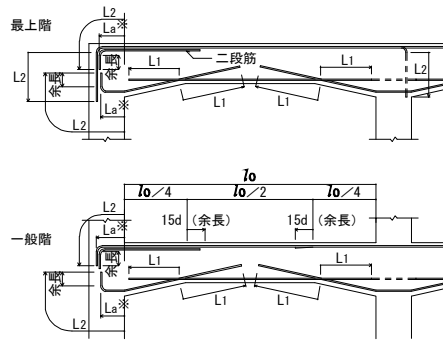
吊上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

2. ハンチのない場合の重ね継ぎ手、定着及び余長



- (注) 1) 2. (2)で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 破線は、柱内定着の場合を示す。
3) 隣合う継手の位置は3. Bによる。
※ Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
4) 継手長さは、図示による。

3. ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1) 2. (2)で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 柱内定着の端部下端筋が接近するときは、--のように引き通すことができる。
3) 破線は、柱内定着の場合を示す。
4) 隣合う継手の位置は3. Bによる。
※ Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

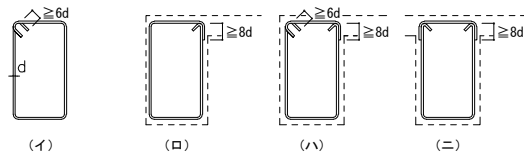
B. あばら筋、腹筋及び幅止め筋

1. 一般事項

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。ただし、L2定着の場合の継手は図示による。図示なき場合は、圧接又はL1重ね継手とする。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10@1,000程度とする。

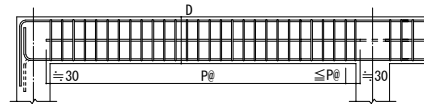
2. あばら筋組立ての形及びフックの位置

- (1) 形は、(イ)とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合には(ロ)~(ニ)とすることができる。ただし、置きスラブの場合は(イ)と同様とする。
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブのつく側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合はスラブのつく側を90°折曲げとする。

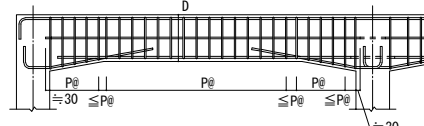


3. あばら筋の割付け

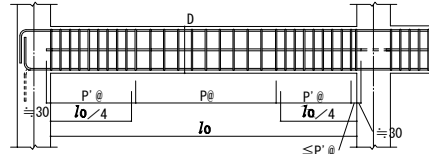
(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



(2) 間隔が一樣でハンチのある場合

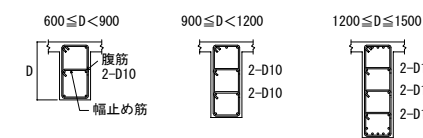


(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1) あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2) 図のP1@、P2@は、図示されたあばら筋の間隔を示す。

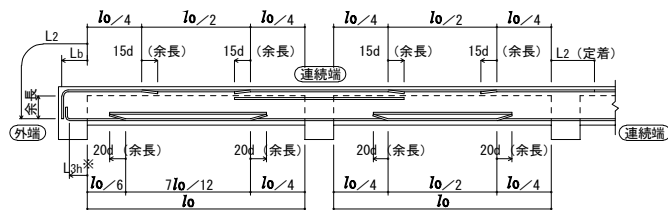
4. 腹筋及び幅止め筋



9. 小梁及び片持梁

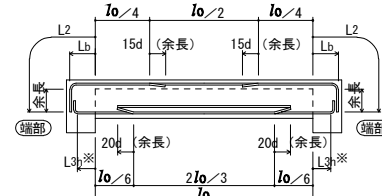
A. 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁



- (注) 図示のない事項は「8. 大梁」の項による。
※ L3hを確保できない場合は、3. C. (2)によることができる。

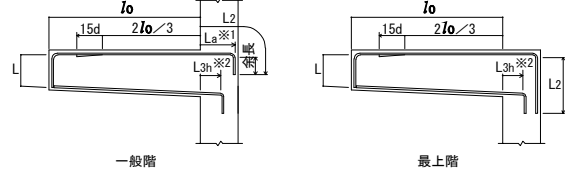
(2) 単独小梁



- (注) 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。図示のない事項は「8. 大梁」の項による。
※ L3hを確保できない場合は、3. C. (2)によることができる。

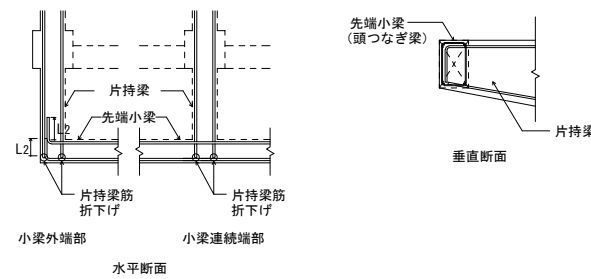
B. 片持梁主筋の定着及び余長

1. 先端に小梁のない場合



- (注) 1) 図示のない事項は、「8. 大梁」の項による。
2) 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
※1 Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
※2 L3hを確保できない場合は、3. C. (2)によることができる。

2. 先端に小梁がある場合



- (注) 1) 図示のない事項は、上記1.による。
2) 先端小梁終端部の主筋は片持梁内に水平定着する。
3) 先端小梁の連続端は片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

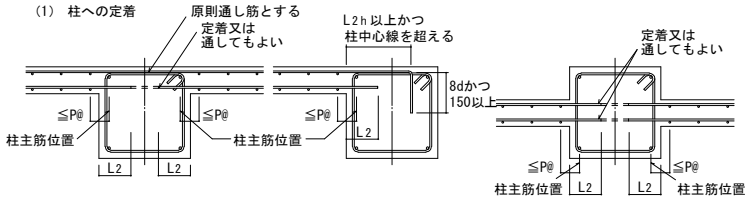
10. 壁

A. 一般事項

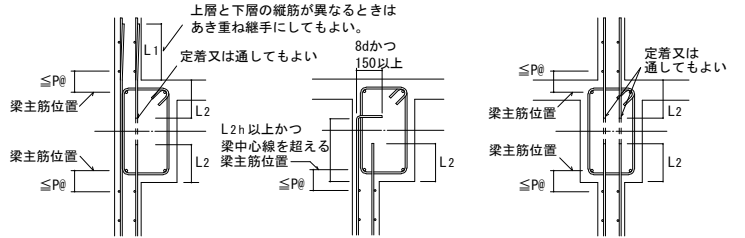
- (1) 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
(2) 幅止め筋は、縦、横とも D10@1,000 程度とする。

B. 壁筋の配筋

(1) 柱への定着



(2) 梁への定着



(注) 1) Pは壁筋間隔を示す。

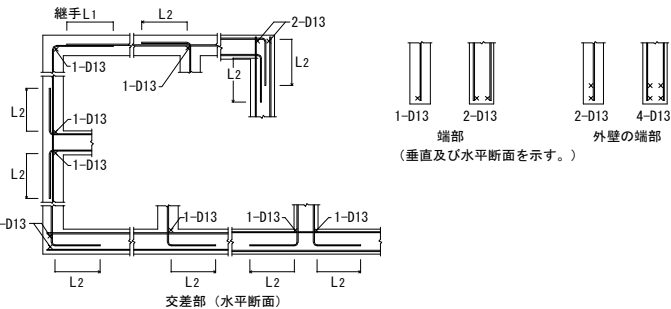
C. 階段受け壁

表10.1 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

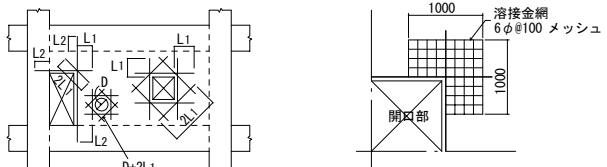
配筋種別	壁厚 t (mm)	壁配筋	階段の配筋種別
KW1	180	縦筋 D13@200 (ダブル) 横筋 D10@200 (ダブル)	KA1
KW2	200	縦筋 D13@150 (ダブル) 横筋 D10@200 (ダブル)	KA2

- (注) 1) 縦筋は横筋の外側に配筋する。
2) 階段の配筋種別は 12. Aによる。

D. 交差部及び端部の配筋



E. 壁の開口部補強 (耐震壁を除く)

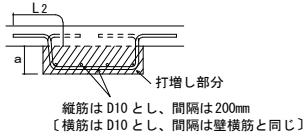


- (注) 出入口開口の縦補強筋は上下のはりに定着する
(注) 溶接金網を用いる場合は、斜め補強筋1-D13のかわりに1枚、2-D13のかわりに2枚を主筋の外側の被り部分に入れる。

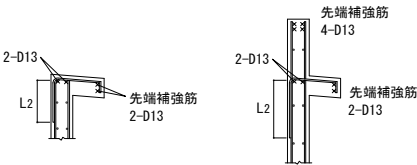
- (注) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略することができる。

F. 壁の打増し補強筋

- (1) aが 50mm 未満の打増しの場合は、補強不要とする。
(2) aが 200mm を越える場合は特記による。



G. バラベツ配筋



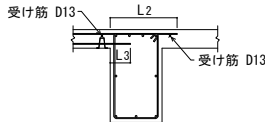
11. スラブ

A. 一般事項

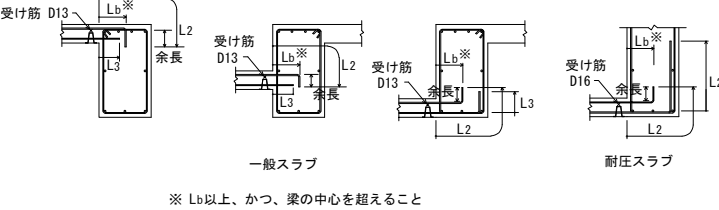
- (1) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(2) 鉄筋の重ね継手長さは、L1 とする。

B. 定着及び受け筋

(1) 鉄筋を引き通す場合



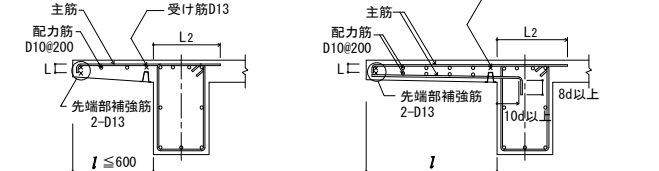
(2) 鉄筋を引き通す事が出来ない場合



※ Lb以上、かつ、梁の中心を超えること

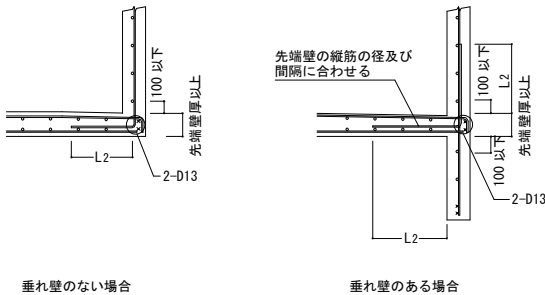
C. 片持スラブ

(1) 片持スラブの配筋

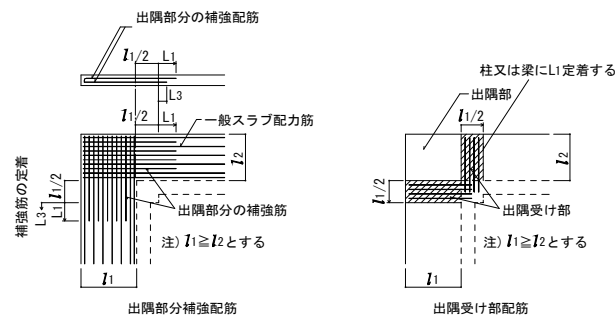


- (注) 1) 片持スラブの先端部及び三辺固定スラブの自由端には、上図により補強筋を配置する。
2) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。
3) 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

(2) 片持スラブ先端に壁が付く場合

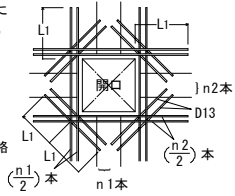


(3) 出隅部の補強



D. スラブ開口部補強

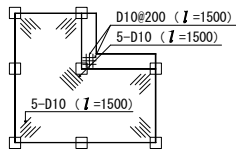
- (1) スラブ開口の最大径が 700mm 以下の場合は、右図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (I=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。
(2) スラブ開口の最大径が、700mm をこえる場合は、図示による。
(3) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



E. その他の補強

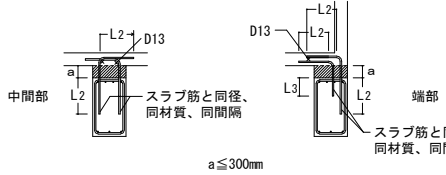
1. 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



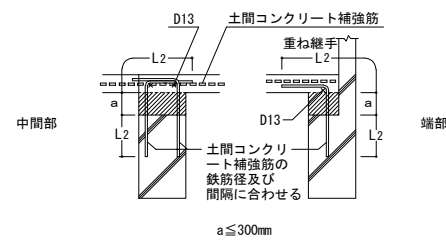
2. 土間スラブ (土に接する構造スラブ) の打継ぎ補強筋

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図示なき場合には下図による。



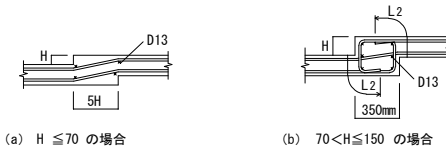
3. 土間コンクリート (床荷重を直接支持地盤へ伝達できるもの) の補強筋

土間コンクリートと基礎梁との接合部は下図による。



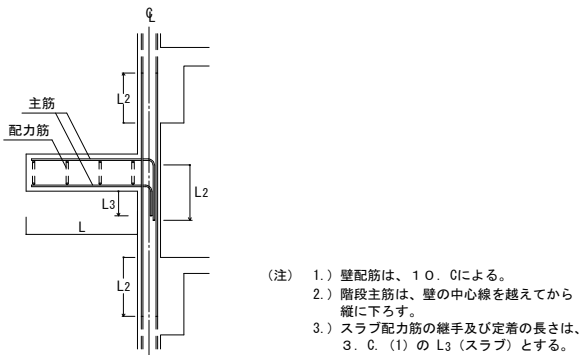
4. 段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、図示なき場合には下図による。



12. 階段

A. 片持スラブ形階段



- (注) 1.) 壁配筋は、10. Cによる。
2.) 階段主筋は、壁の中心線を超えてから縦に下ろす。
3.) スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、3. C. (1) の L3 (スラブ) とする。

表12.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
許容スパン (mm)	L ≤ 1500	L ≤ 2000

(注) 許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

B. 二辺固定スラブ形階段

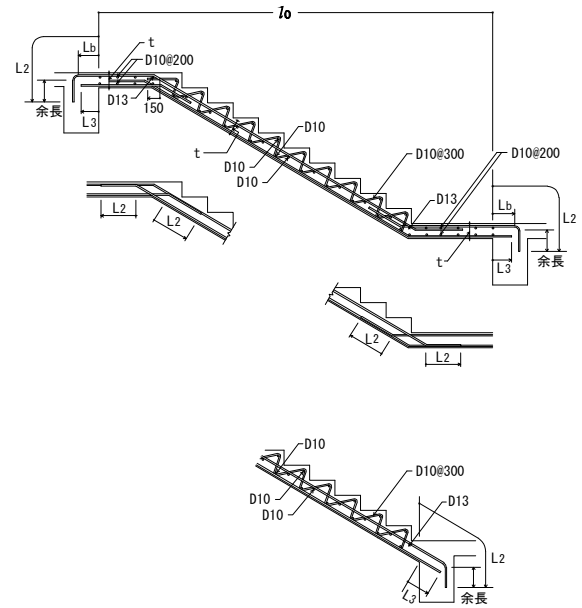


表12.2 二辺固定スラブ形階段基準配筋

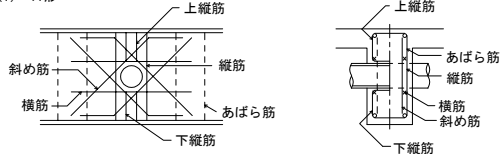
配筋種別	スラブ厚さ t (mm)	上端筋、下端筋とも (全域)	許容スパン (mm)
KB1	150	D13@200	Lo ≤ 3000
KB2	150	D13@150	Lo ≤ 3500
KB3	150	D13@100	Lo ≤ 4000
KB4	180	D13, D16@150	Lo ≤ 4500
KB5	180	D16@150	Lo ≤ 5000
KB6	180	D16@125	Lo ≤ 5500
KB7	200	D16@100	Lo ≤ 6000

(注) 許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

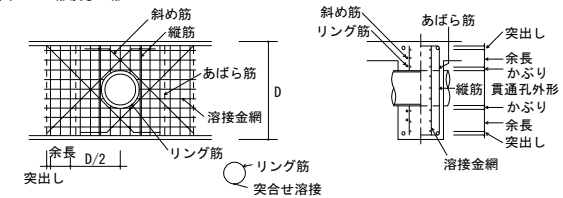
1 3. 梁貫通孔の補強

1. 梁貫通孔補強筋の名称等は下図による。

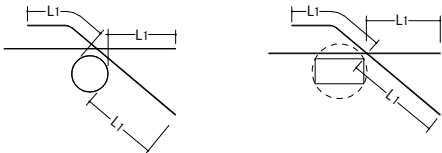
(1) H形



(2) MH形及びM形



- 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
- 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は主筋の内側とする。又、鉄筋の定着長さは、下図による。



- 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- 補強形式は次表による。

表13.1 H形配筋（RC梁）

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H 1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表13.2 M形配筋（SRC梁）

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
M 1	2-2-D13	なし	なし	
M 2	4-2-D13	なし	なし	
M 3	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
M 4	6-2-D13	2-6φ@100	13φ	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表13.3 MH形配筋（RC梁、SRC梁）

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
MH 1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH 2	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH 3	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH 4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH 5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH 6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH 7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

13. 梁貫通孔補強筋は、監督職員の手諾を受けて、既製品と入れ替える事ができる。

表13.4 既製品

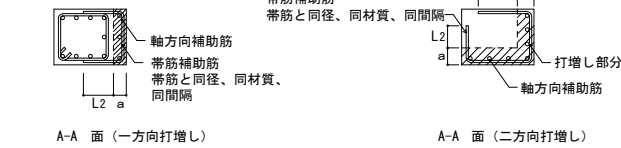
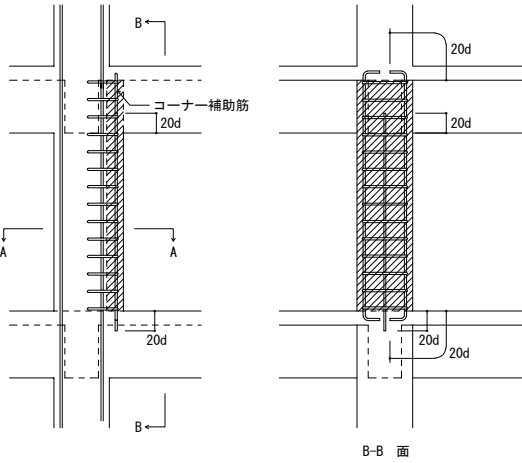
製品名	メーカー名
・ダイアレン	コーリョー建販
・リバーレン	JFEテクノワイヤ
・MAXリンブレンK型	丸井産業

1 4. 柱、梁の打増しコンクリート補強

A. 柱の打増しコンクリート補強

梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。

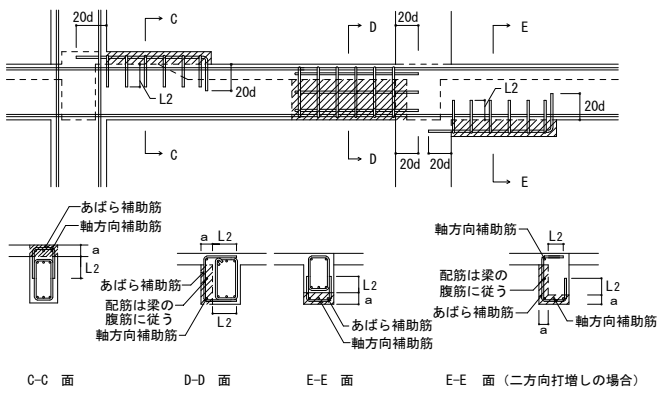
a<70 打増し補助筋不要
70≤a≤200 軸方向補助筋 D16@300
200<a≤300 軸方向補助筋 D19@300



B. 梁の打増しコンクリート補強

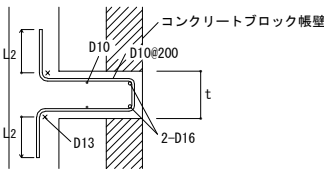
あばら補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とする。

a<70 打増し補助筋不要
70≤a≤200 軸方向補助筋 D16@300
200<a≤300 軸方向補助筋 D19@300



1 5. コンクリートブロック帳壁との取合い

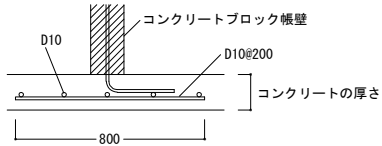
1. 帳壁の控壁



控壁の配筋（水平、垂直とも）

2. 土間コンクリートの補強

帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



1 6. 壁のひびわれ対策

A. 建物端部に設けられた外壁の補強

- 建物端部に設けられた外壁は、斜めひび割れに対して下記の補強を行う。ただし、スリットを設けている場合は不要とする。

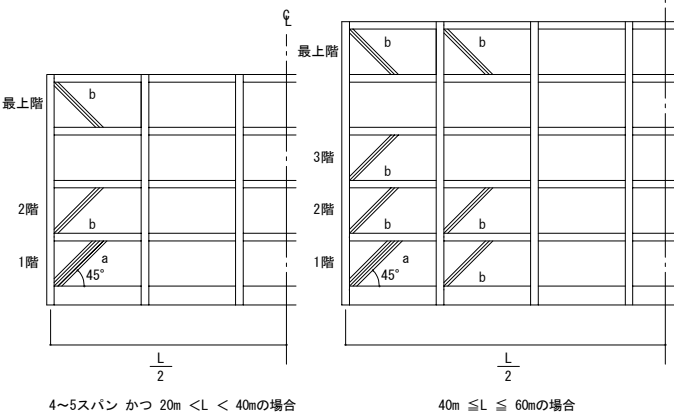
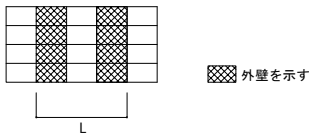


表16.1 斜めひび割れ補強筋

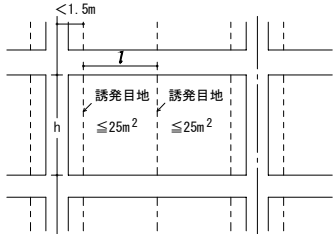
壁配筋	補強筋	
	a	b
シングル	5-D13	3-D13
ダブル	10-D13	6-D13

- 外壁が建物の端部以外の部分に設けられている場合、壁より外側のフレームを除いた長さLにより前項を適用する。

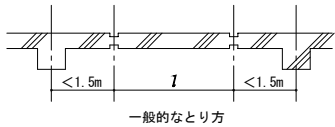


B. 誘発目地

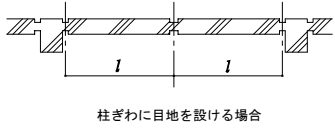
- 特に対策を講ずる場合以外は、原則として周囲を柱・はり・床組・誘発目地などで囲まれた1枚の壁の面積を25m²以下とする。誘発目地間隔は3m以内とし、位置は意匠図による。



$$\frac{l}{h} \leq 1.25$$

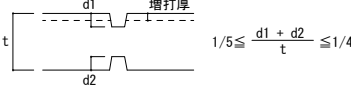


一般的なとり方



柱ぎわに目地を設ける場合

- 架構より突出したバルコニー、腰壁、垂れ壁等には原則として3m程度以内の間隔で誘発目地を設ける。
- 誘発目地は、原則として目地による壁断面の欠損率を施工時の実壁厚に対して1/5～1/4とし、壁の両面から欠き込むものとする。ただし、耐震壁に目地を設ける場合、欠損率は1/5程度にとどめるものとする。



- 誘発目地部分の鉄筋は目地底より最小かぶり厚を確保するものとする。

C. その他

- 壁に配管類などを埋め込む場合、管径は壁板内外配筋の中間に収まる寸法とし、配管類に対するかぶり厚さ及び配管類間のあきは、30mm以上とする。

溶接接合

1. 一般事項		2. 完全溶込み溶接開先標準		(単位：mm)		5. フレア溶接基準	
1.1 溶接方法		(単位：mm)		(単位：mm)		(単位：mm)	
溶接方法は原則としてアーク溶接とし、溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接とする。		(アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)		(サブマージアーク自動溶接)		(アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)	
1.2 溶接継手		HB1(片面溶接)HB2(両面溶接)		AB1(片面溶接)AB2(両面溶接)		FL1(丸鋼等片面溶接)FL2(丸鋼等両面溶接)FL3(軽量形鋼V形溶接)FL4(軽量形鋼V形溶接)	
溶接継手の種類は、完全溶込み溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接及びフレア溶接とし、完全溶込み溶接の継手形状の種類は、突合せ継手、T形継手及びかど継手とする。		t≦6		t≦12		t≦6	
1.3 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号		6<t≦19		12<t≦22		t≦12	
表1.1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号		19<t≦40		22<t≦40		12<t≦19	
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接	H		H		H	
	セルフシールドアーク半自動溶接	A		A		A	
	サブマージアーク自動溶接	E		E		E	
	エレクトロスラグ溶接	B		B		B	
	完全溶込み溶接	T		T		T	
溶接継手	突合せ継手	L		L		L	
	T形継手	F		F		F	
	隅肉溶接	P		P		P	
	部分溶込み溶接	FL		FL		FL	
溶接面	片面溶接	1		1		1	
	両面溶接(注)	2		2		2	
(注) 両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。		突合せ継手(B)		かど継手(L)		フレア溶接(F)	
1.4 溶接の補助記号		HT1(片面溶接)HT2(両面溶接)AT1(片面溶接)AT2(両面溶接)		隅肉溶接基準		表6.1 スタッドの間隔、ゲージ等の寸法	
表1.2 溶接の補助記号		t≦6		隅肉溶接(F)		間隔(p)	
区分補助記号		t≦12		(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)		呼び名の7.5倍以上かつ600mm以下	
現場溶接		t≦16		F1(片面溶接)		呼び名の5倍以上	
全周溶接		t≦19		F2(両面溶接)		40mm以上	
全周現場溶接		t≦22		F2(両面溶接)		呼び名の4倍以上。デッキプレートが介在する場合は、呼び名の4倍以上で、かつ、デッキプレート高さ(Hd)に30mmを加えたもの以上とする。	
断続溶接の長さ及び間隔		t≦40		F2(両面溶接)		30mm以上。土に接する部分及び外壁仕上なしの部分は、40mm以上とする。	
断続溶接の長さ及び間隔		t≦40		F2(両面溶接)		呼び名の4倍以上。デッキプレートが介在する場合は、呼び名の4倍以上で、かつ、デッキプレート高さ(Hd)に30mmを加えたもの以上とする。	
1.5 溶接記号の記載方法		T形継手(T)		表3.1 隅肉溶接のサイズ		適用管厚 3.2mm≦t≦12mm	
溶接記号の記載方法は下図またはJISによる。ただし、溶接工法又は溶接面の指定を行わない場合は、溶接継手のみの記入とする。なお、JISによる場合の、完全溶け込み溶接に対する溶接継手の記号は、で代表させる場合がある。		12<t≦22		tは、t1, t2の薄い方の板厚とする。		交角 30° ≦ θ ≦ 150°	
(注) 基準線及び引出線は、溶接記号(JIS Z 3021)に準ずる。		19<t≦40		注) 1) 隅肉溶接の長さ		D-D 断面図	
(記載例)		22<t≦40		設計図書(図面及び仕様書)に示す断続隅肉溶接長さは、右図の有効長さ(Le)とし、隅肉のサイズ(S)の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。		主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。	
溶接記号の記載は、下図に従い、溶接方法、溶接継手及び溶接面の記号を記入する。		1/4t≦S≦10		4. 部分溶込み溶接開先標準		50° ~60°	
ハンチ部等の溶接		1/4t≦S≦10		部分溶込み溶接(P)		1.5t~2.0t	
ハンチ部等のT形継手において、溶接板が直交しない場合の開先標準は、下図による。		1/4t≦S≦10		(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)		50° ~60°	
(単位：mm)		1/4t≦S≦10		P1(片面溶接)		1.5t~2.0t	
アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接		P2(両面溶接)		12≦t≦40		1.5t~2.0t	
HT1(片面溶接)HT2(両面溶接)		16≦t≦40		t		1.5t~2.0t	
6<t≦40		1/4t≦S≦10		D		1.5t~2.0t	
6<t≦19		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
19<t≦40		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
1.6 その他		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
1) 設計図書に記載なき場合は、本基準図に従うものとする。		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
2) 本基準図に記載なき場合は、「鉄骨工事技術指針(日本建築学会編)」による。		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
3) 精度に関しては「鉄骨精度測定指針(日本建築学会編)」によるとともに、告示12-1464第二号イ(3)の規定も満足すること。		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
4) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し、監督職員の承認を得ること。		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	
5) 本鉄骨基準図に示す溶接形状、開先角度、ルート間隔及びルートフェース等は標準を示すもので、鉄骨加工業者が、施工設備、経験により、独自の基準を有する場合は、「鉄骨工事施工要領書」にその基準及びその根拠を示すデータ、検査結果、検査要領等を添付し、監督職員の承認を得た場合に限り、その基準による事ができる。		1/4t≦S≦10		1/4t≦S≦10		1.5t~2.0t	

6.3 焼抜き栓溶接

1) 焼抜き栓溶接

表6.2 焼抜き栓溶接		
項目	JIS Z 3801 基本級以上	
溶接工資格	JIS D 4316, 5016に定める低水素系被覆アーク溶接棒 φ4mm	
溶接機	交流アーク溶接機AW300A以上 エンジン溶接機280A以上	
附属設備	ケーブル類：38mm以上	
電源容量	溶接機1台につき24KVA	
デッキ板厚 (mm)	1.2～1.6	
はりフランジ板厚 (mm)	6～9未満	9以上
溶接電流 (A)	230～250	270～300
溶接電圧 (V)		
アークタイム (sec)	5～8 (溶接時間10～18)	
余盛り径 (mm)	25～30	

2) 自動焼抜き栓溶接

表6.3 自動焼抜き栓溶接		
項目	JIS Z 3841 基本級以上	
溶接棒及び溶接材料	ワイヤ：YGW11, 12 φ1.2 ガス：CO ₂	
溶接機	専用溶接機 (350A)	
附属設備	ブッシュフィーダー、ケーブル類 アークスポットガン、ノズル、レギュレータ	
電源容量	溶接機1台につき18KVA (エンジン発電機35KVA以上)	
デッキ板厚 (mm)	1.2	1.6
はりフランジ板厚 (mm)	6～9未満	9以上
溶接電流 (A)	300～320	300～320
溶接電圧 (V)	33～35	33～35
アークタイム (sec)	3.0～4.0× 1度打ち	3.5～4.0× 2度打ち
余盛り径 (mm)	25±3	

6.4 BOX柱角溶接

1) 鉄骨柱の場合

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

部分溶込み溶接
または完全溶込み溶接

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

階高

2) コンクリート充填鋼管柱の場合

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

完全溶込み溶接

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

階高

注) 1) 溶接全線を完全溶込み溶接とする場合でもUT対象は、仕口まわりの範囲のみとする。

2) コンクリート充填鋼管柱の圧入工法で、板厚が厚い場合、又は施工時の内圧に対する必要のど厚を考慮した場合は、仕口まわりを除き、部分溶込み溶接とすることができる。

3) *寸法は、300mmかつ柱せいの半分以上とする。

共通事項

柱幅は400mm～1000mmとする。

スキムプレート厚は22mm～60mmとし、材質はC種とする。

内ダイアフラム厚は22mm～70mmとし、スキムプレート厚の4サイズアップ以下とする。材質は梁フランジ材と同等以上のものを用い、板厚は同レベルに集まる梁フランジのうち最厚のもの以上かつ9mm以上とする。

裏当て金の材質はSN490Bとする。

7. 鉄骨加工要領

7.1 溶接材料

1) 溶接棒等の種類は下表より、母材の種類及び寸法並びに溶接条件に相当したものを選定する。

種類	規格番号	規格名称等
被覆アーク溶接棒	JIS Z3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
	JIS Z3214	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3312	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
	JIS Z3315	耐候性鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3320	耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
サブマージアーク溶接用材料	JIS Z3183	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分
	JIS Z3351	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3352	サブマージアーク溶接及びエレクトロスラグ溶接用フラックス
エレクトロスラグ溶接用材料	JIS Z3353	軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
		上に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた溶接材料

2) 使用する溶接棒の最大径は1層目4mm、2層目以降は6mmとする。

7.2 加工

1) 切断

：ガス切断による場合は、自動ガス切断とする。

厚さ13mm以下の鋼板は、せん断による切断とすることができる。

切断面には、有害な凹凸、まくれ、切欠き、スラグの付着等がないものとする。

2) 開先加工

：自動ガス切断、又は機械加工とする。

3) 孔あけ

：ドリル孔あけとする。

7.3 組立

1) 490N/㎡級以上、又は厚さ25mm以上かつ400N/㎡級の組立溶接を被覆アーク溶接で行う場合は、低水素系溶接棒を使用する。

2) 組立溶接の最小ビード長さは、表7.2により、組み立てた部材の形状が保持できるよう適切な間隔で溶接する。

表7.2 組立溶接の最小ビード長さ (単位：mm)		
板厚	本溶接を被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接、又はセルフシールドアーク溶接で行う面所のビード長さ	本溶接をサブマージアーク溶接で行う箇所のビード長さ
t≤6	30	50
t>6	40	70

(注) 板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

3) 予熱

：材料の種類、板厚及び母材の温度などにより、適当な予熱を行う。(溶接線を中心に片側100mmずつ行う)

7.4 裏はつり

完全溶込み溶接で部材の両面から溶接する場合は、表面から溶接を行った後、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりを行い、裏はつり部を十分に清掃した後、裏溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶込みが得られることを確認した場合は、裏はつりを省略することができる。

7.5 裏当て金

1) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、下図に

よる断続隅肉溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。

2) 裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上とする。

表7.3 裏当て金の厚さ (単位：mm)	
溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

表7.4 溶接のサイズ (単位：mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

エンドタブの組立溶接は3箇所全て梁部材には溶接せず裏当て金内とする

フランジに直接、組立溶接してはならない

エンドタブの組立溶接は裏当て金に溶接する

裏当て金の組立溶接は板幅の1/4を中心に長さ50mm

裏当て金の組立溶接は裏当て金に溶接する

裏当て金の組立溶接は板幅1/4を中心に長さ50mm

裏当て金とエンドタブの組立溶接位置

7.6 エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同開先のものを用い、長さは、下図及び表7.5のとおりとする。ただし、溶接部の品質が十分に確保できると判断される場合は、監督職員の承諾を受けて、その他の工法とすることができる。

表7.5 エンドタブの長さ (単位：mm)	
溶接工法	ℓ
被覆アーク溶接	35 以上
ガスシールドアーク溶接	35 以上
サブマージアーク溶接	70 以上

エンドタブを切断する場合は下記による。

1) エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から、1～5mmを残して、部材断面を欠損しないように直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合には、交差部をアール状に加工する。

2) 切断面は、グラインダーにより粗さ100μmRz程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる。

7.7 柱梁完全溶込み溶接部の形状

柱梁接合部のうち梁端溶接部の梁フランジを完全溶込み溶接する際の形状は以下による。

1) ノンスカラップ工法

a) 柱通しの場合

b) 梁通しの場合

ただし、仕口専用ポジションが必要

2) 複合円型スカラップ工法

a) 柱通しの場合

b) 梁通しの場合

3) 現場溶接の場合の梁端形状

a) ストレートカット形状

b) 上端ノンスカラップ、下端スカラップ形式

7.8 スニップカット

溶接の交差部をスニップカット (Sc) で、処理する場合の標準寸法は、鋼板の板厚に応じて表7.6によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。ただし、既製形鋼のスニップカットはSc=r+2により求めるものとする。

表7.6 スニップカット (単位：mm)				
t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

7.9 余盛り

突合せ継手、かど継手、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部には、余盛りを行う。その高さの上限は、表7.7による。

表7.7 余盛り高さ (単位：mm)		
溶接継手	溶接方法	余盛りの限度
突合せ継手 かど継手	手溶接	3
	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接 フレア溶接	手溶接	3
	半自動溶接	

7.10 溶接板の段差

板厚が異なる場合の突合せ継手の溶接部の形状は、次による。

1) 低応力高サイクル疲労を受ける部位は特記により、その形状は、厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一の高さにする。

2) 1) 以外で板厚差による段違いが薄い方の板厚の1/4を超える場合、又は10mmを超える場合は、T継手に準じた高さの余盛りを設ける。

3) 板厚差による段違いが薄い方の板厚の1/4以下かつ10mm以下の場合は、溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。

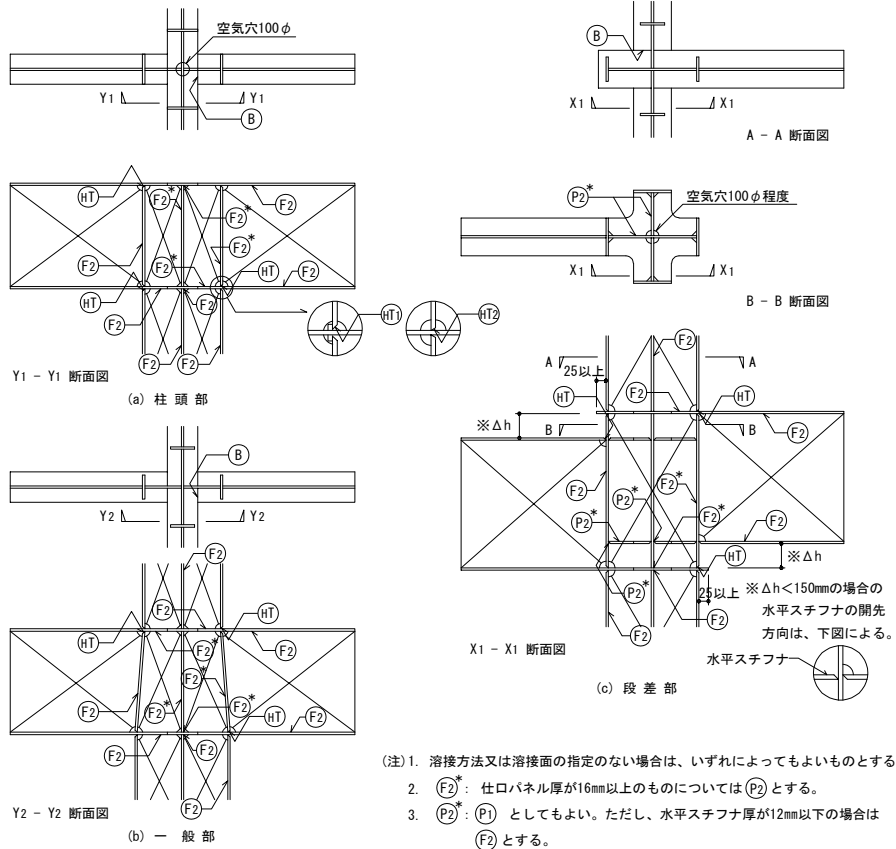
7.11 開先精度

開先角度の精度は0°～+5°とし、ルート間隔精度は±1.5mmとする。

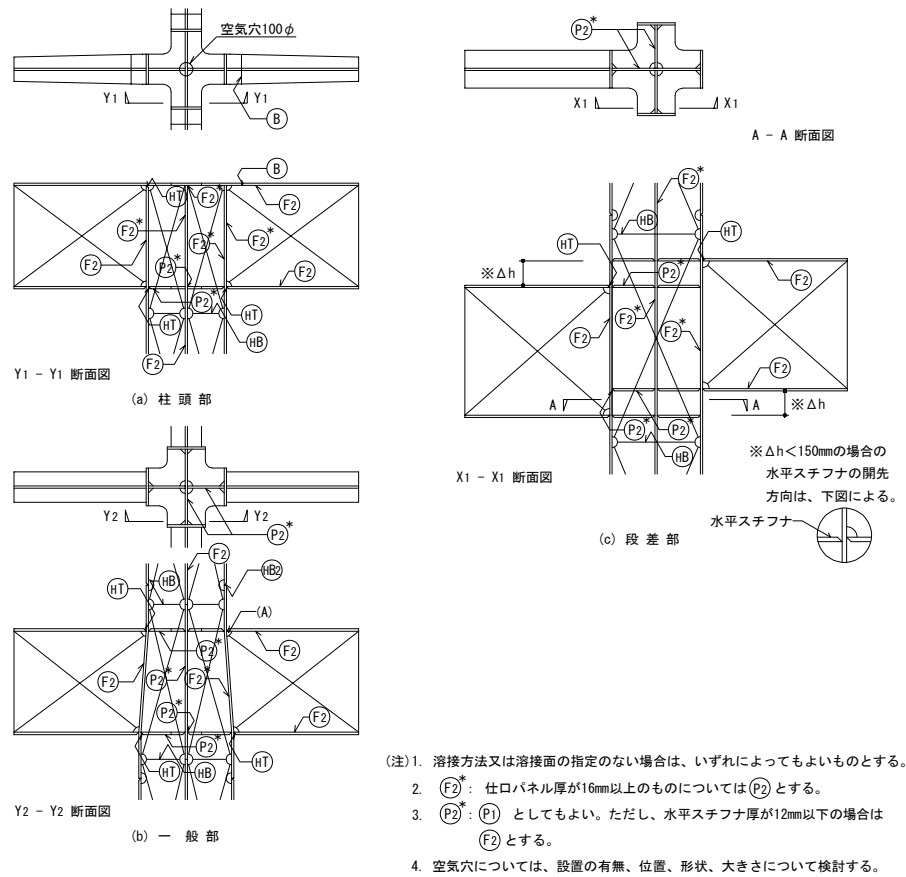
11. 仕口パネルその他仕口部詳細図

11.1 十字形柱

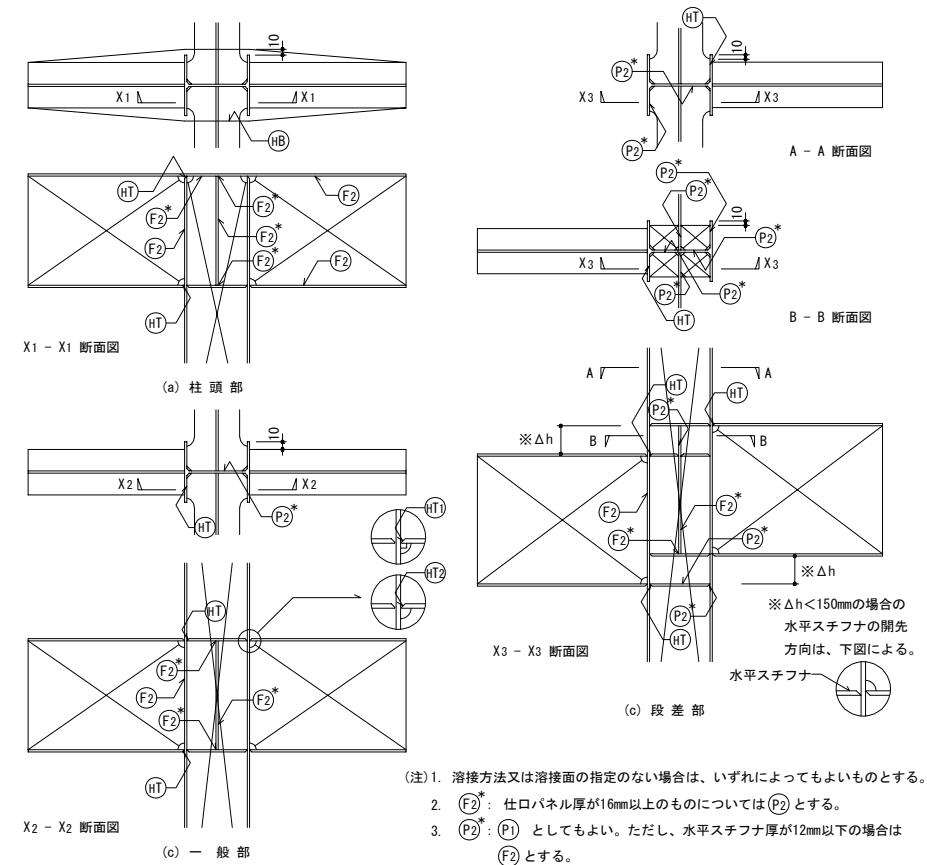
はり通し



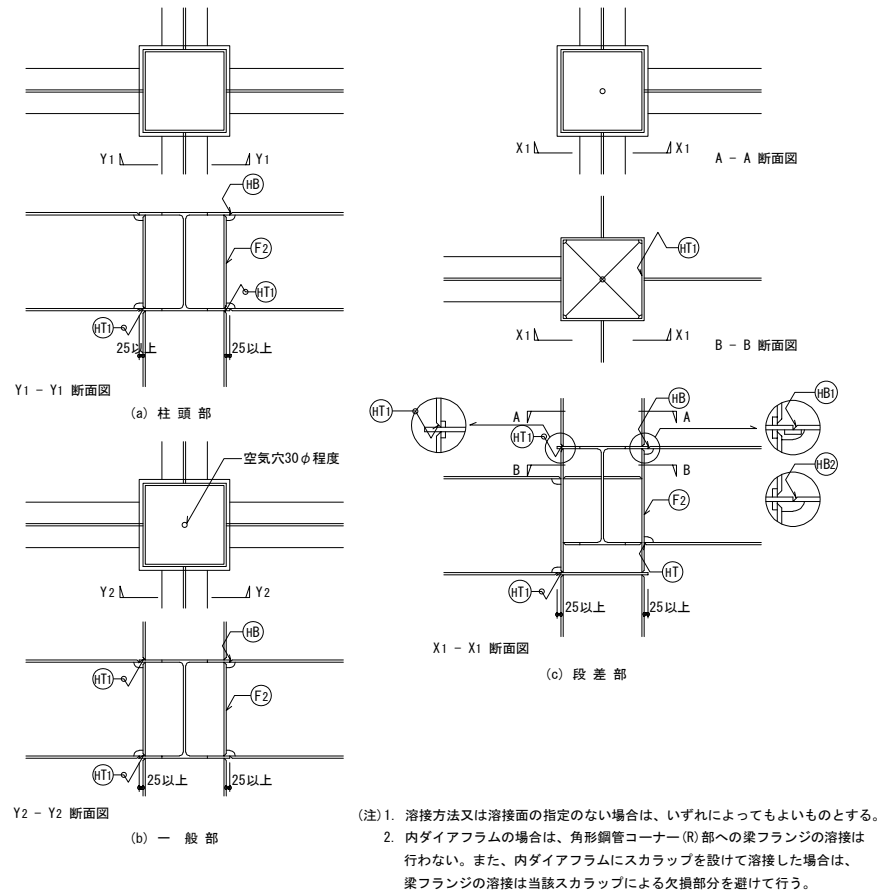
柱通し



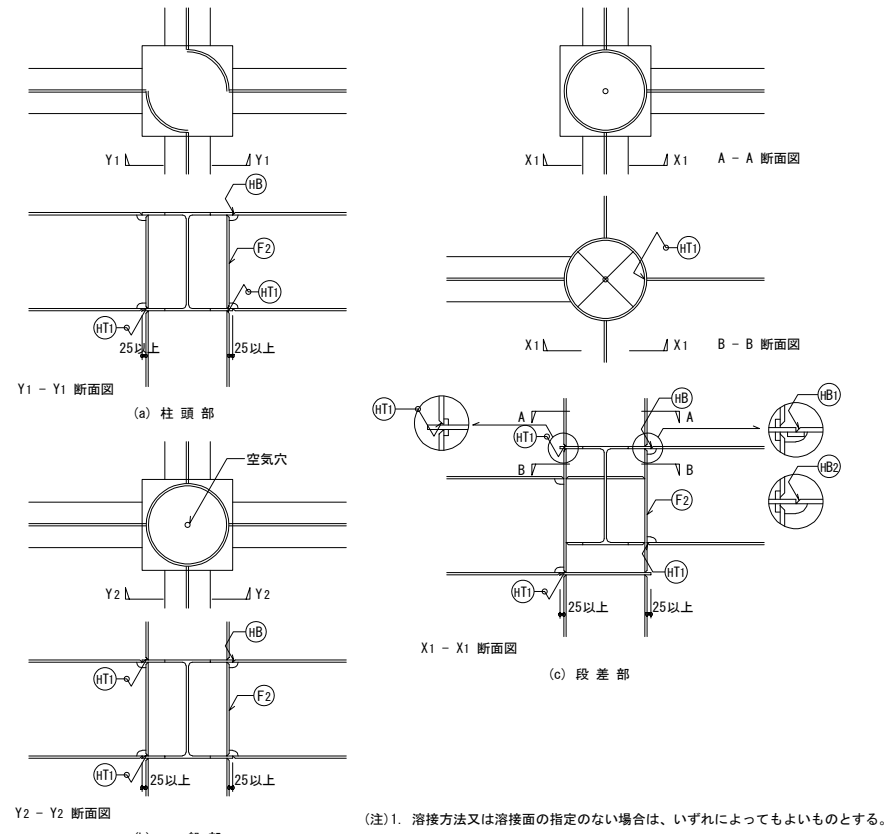
11.2 H形柱



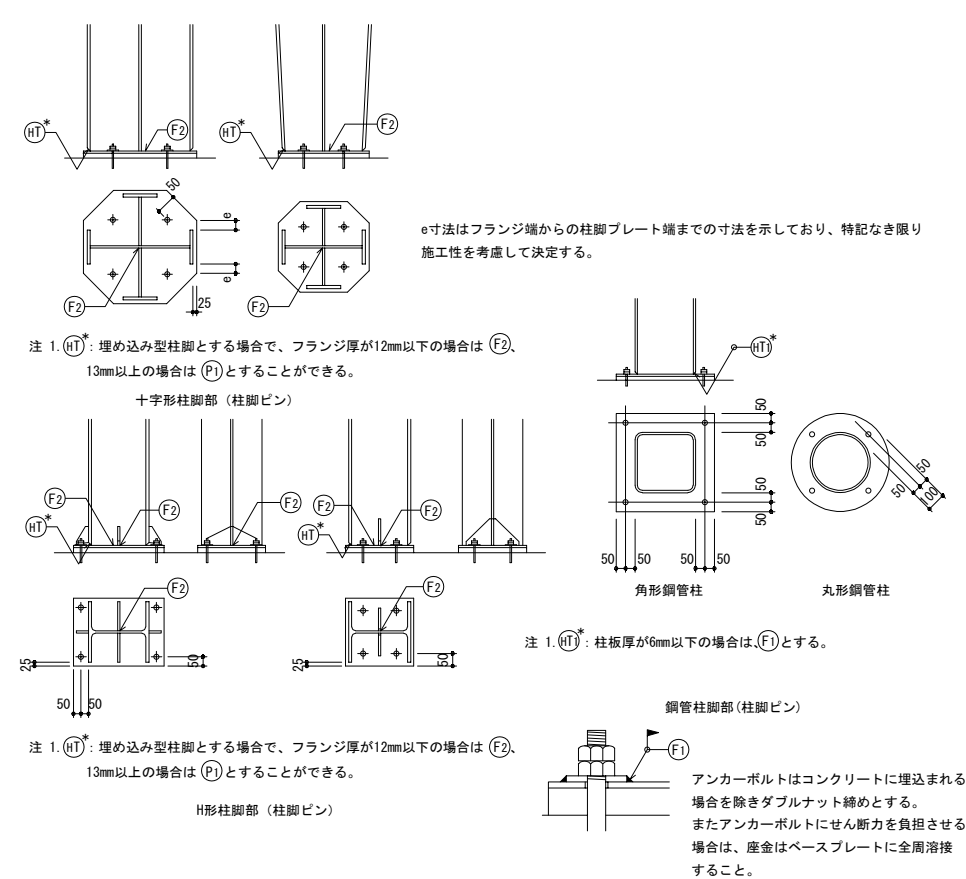
11.3 角形鋼管柱

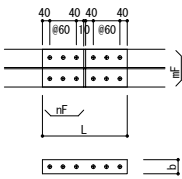
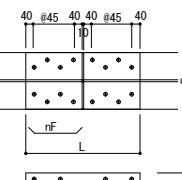
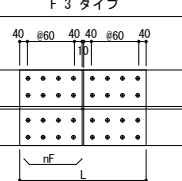
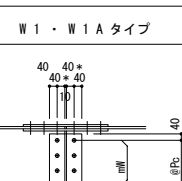
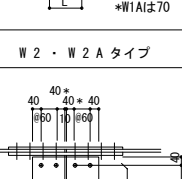
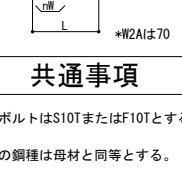


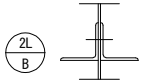
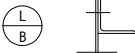
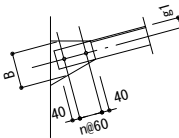
11.4 鋼管柱



11.5 柱脚部詳細図



シリーズ		部 材	梁 継 手 (SCSS-H97準拠) (H)										柱 継 手 (SCSS-H97準拠) (H)										凡 例												
			400N/mm ² 級用					490N/mm ² 級用					400N/mm ² 級用					490N/mm ² 級用																	
			径	タイプ	高力ボルト n F × m F	外面添板 (t × L) 内面添板 (t × b)	タイプ	高力ボルト m W × n W	Pc	添板 (t × b × L)	径	タイプ	高力ボルト n F × m F	外面添板 (t × L) 内面添板 (t × b)	タイプ	高力ボルト m W × n W	Pc	添板 (t × b × L)	径	タイプ	高力ボルト n F × m F	外面添板 (t × L) 内面添板 (t × b)	タイプ	高力ボルト m W × n W	Pc	添板 (t × b × L)									
細幅系列	200x100	H-200x100x 5.5x 8	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W1	2 × 1	60	6x140x170	M16	F1	3 × 2	16 x 410	W2	2 × 2	60	6x140x290	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W2	2 × 2	60	6x140x290	M16	F1	3 × 2	16 x 410	W2	2 × 2	60	6x140x290	F 1 タイプ
	250x125	H-248x124x 5x 8	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	9x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 3	60	9x140x410	
		H-250x125x 6x 9	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	9x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 3	60	9x140x410	
	300x150	H-298x149x 5.5x 8	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W1	2 × 1	120	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W1	3 × 1	60	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W2	2 × 2	120	6x200x290	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W2	2 × 2	120	6x200x290	
		H-300x150x 6.5x 9	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1	2 × 1	120	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1	3 × 1	60	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1	3 × 1	60	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W2	2 × 2	120	6x200x290	
	350x175	H-346x174x 6x 9	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	4 × 1	60	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	4 × 1	60	6x260x170	
		H-350x175x 7x 11	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	4 × 1	60	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	4 × 1	60	6x260x170	
	400x200	H-396x199x 7x 11	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W1	4 × 1	60	6x260x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W2	3 × 2	90	9x260x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W2	3 × 2	90	9x260x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W2	4 × 2	60	9x260x290	
		H-400x200x 8x 13	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W1	4 × 1	60	9x260x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	3 × 2	90	9x260x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	3 × 2	90	9x260x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	4 × 2	60	9x260x290	
	450x200	H-446x199x 8x 12	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	3 × 2	120	9x320x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	5 × 2	60	9x320x290	
H-450x200x 9x 14		M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	3 × 2	120	9x320x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	5 × 2	60	9x320x290		
500x200	H-496x199x 9x 14	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W1	6 × 1	60	9x380x170	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	6 × 1	60	9x380x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	5 × 2	60	9x320x290		
	H-500x200x 10x 16	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W1	6 × 1	60	9x380x170	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	6 × 1	60	9x380x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	5 × 2	60	9x320x290		
600x200	H-596x199x 10x 15	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W2	4 × 2	120	9x440x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	6 × 2	60	12x380x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W2	5 × 2	90	9x440x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	7 × 2	60	12x440x290		
	H-600x200x 11x 17	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W2	4 × 2	120	9x440x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	6 × 2	60	12x380x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W2	5 × 2	90	9x440x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	7 × 2	60	12x440x290		
中幅系列	148x100	H-148x100x 6x 9	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W2	1 × 2	-	6x 80x290	M16	F1	3 × 2	16 x 410	W2	1 × 3	-	6x 80x410	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W2	1 × 3	-	9x 80x410	M16	F1	3 × 2	16 x 410	W2	1 × 3	-	9x 80x410	
	200x150	H-194x150x 6x 9	M16	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1A	2 × 1	60	6x140x230	M16	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 60	W2A	2 × 2	60	6x140x350	M16	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W2A	2 × 2	60	6x140x350	M16	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 60	W2A	2 × 2	60	6x140x350	
	250x175	H-244x175x 7x 11	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	2 × 1	60	9x140x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W2	2 × 2	60	9x140x290	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W2	2 × 2	60	9x140x290	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W2	2 × 2	60	9x140x290	
	300x200	H-294x200x 8x 12	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W1	3 × 1	60	9x200x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	2 × 2	120	6x200x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W1	3 × 1	60	9x200x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	3 × 2	60	9x200x290	
	350x250	H-340x250x 9x 14	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 100	W2	3 × 2	60	9x200x290	M20	F1	5 × 2	12 x 650 12 x 100	W2	3 × 2	60	9x200x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 100	W2	3 × 2	60	12x200x290	M20	F1	5 × 2	12 x 650 12 x 100	W2	3 × 2	60	12x200x290	
	400x300	H-390x300x 10x 16	M22	F2	3 × 2	12 x 350 12 x 110	W1	3 × 1	90	9x260x170	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W2	3 × 2	90	9x260x290	M22	F2	3 × 2	12 x 350 12 x 110	W1	4 × 1	60	9x260x170	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W2	3 × 2	90	9x260x290	

山 形 鋼 継 手																	
	軸 プ レ ー ス ・ 床 プ レ ー ス								床 プ レ ー ス				縦りボルト		G1		
																	
	部 材	径	2面継手				径	1面継手				径	1面継手				
高力ボルト 数量			継手	ガセットプレート 最小B	厚さ	高力ボルト 数量		継手	ガセットプレート 最小B	厚さ	高力ボルト 数量		継手	ガセットプレート 最小B	厚さ		
L - 65 x 65 x 6	M16	5	G1	165	9	M16	5	G1	90	9	M20	2	G1	80	9		特 記 事 項
L - 75 x 75 x 6	M16	5	G1	190	9	M16	5	G1	95	9	M20	2	G1	100	9		
L - 75 x 75 x 9	M20	5	G1	205	12	M16	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9		
L - 90 x 90 x 7	M20	5	G1	205	12	M20	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9		
L - 90 x 90 x 10	M20	5	G1	270	12	M20	5	G1	165	9	M20	4	G1	140	9		
L -100 x100 x 7	M20	5	G1	225	12	M20	4	G1	135	9	M22	3	G1	140	9		
L -100 x100 x 10	M20	6	G1	305	12	M20	5	G1	185	9	M22	4	G1	160	9		
L -100 x100 x 13	M20	8	G1	385	12	M20	6	G1	185	12	M22	5	G1	200	9		

・適用範囲の母材の鋼種は、SS400、SM400、SN400とする。

・プレートの鋼種は母材と同等とする。

・高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。

・軸プレス継手は、建築構造設計指針“最新版”（東京都建築構造行政連絡会）による。

エスミコラム工法地業特記仕様書

1 工事概要

本地業は、セメントミルクを用いた機械式攪拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって地盤改良を行うものである。

2 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（（財）日本建築センター・ベターリング、以下指針という）による。

3 特記事項

- (1) コラムの径(φ1200・1000・800)、掘削深度（改良長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。
コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントミルクの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度はFc=1500kN/m²（1.5N/mm²）、造成後の改良体強度に対しF検定結果による変動係数2.5%以下、不良率10%を確保するものとする。
F検定：各施工業者で既往の調査結果から下記の品質項目を確認したもの。
① 改良体強度の分布に関する正規分布の適合度の判定。
② 土質毎の変動係数の信頼性の確認。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (4) セメントミルクを用いた機械式攪拌深層混合処理工法の専門工事会社（エスミコラム協会所属会員）を本工事施工業者とする。
- (5) 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、共回り現象を防止する攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- (6) 工法の選定においては、(財)日本建築総合試験所等 公的機関における性能証明を取得した工法とする。

4 施工計画

- 工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。
- ① 地盤概要
 - ② 工事内容（コラム径・改良長・空掘長・コラム数・設計基準強度）
 - ③ 工事期間及び工程
 - ④ 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等）
 - ⑤ 施工機器および仮設備と配置
 - ⑥ 配合管理の方法
 - ⑦ 施工管理の方法
 - ⑧ 品質検査の方法
 - ⑨ 各種作業の主たる従事者の組織表
 - ⑩ 施工記録の方法
 - ⑪ 安全対策
 - ⑫ 建築請負業者の本工事責任者名
 - ⑬ 本工事施工業者名及び責任者名

5 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように養生する。
- (2) 必要に応じ監督員の立ち会いのもとで試験打ちを行う。ボーリングデータ等地盤の状況が把握できる地点の近くで試験打ちを行い、所定の下部地盤に到達した時に次の事項を確認し管理指標値を決定する。
① 深さ
② オーガの抵抗値（電動オーガーは 電流値、油圧オーガーは トルク値）
③ 貫入速度の変化
- (3) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が判明した場合は別途検討する。
① 攪拌装置をコラム芯にセットする。
② 所定の空掘深度まで掘削する。
③ ミルクを吐出しながら混合攪拌する。
④ 所定深度に到達したら、ミルクの吐出を停止し、先端処理を行う。
⑤ 攪拌装置を回転させながら引き上げる。
⑥ 本工事により排出された発生残土は場内処分とする。
⑦ 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6 施工機械

- (1) 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、共廻り現象を防止する攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いる。
- (3) 改良機本体は、本地業の施工仕様を満足できる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7 配合管理

- (1) セメントミルクに使用する固化材は、特殊土用セメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
配合管理目標変動係数を想定し、「9 品質検査」に規定する抜き取り個所数Nから表1を用いて X_f を決め、配合強度 X を設定する。
 $X_f = F_c \cdot \alpha_t$
 X_f ：配合強度
 F_c ：設計基準強度
 α_t ：割り増し係数

表 1 割り増し係数（L(p)=80%、Vd=25%の場合）						
抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
配合管理目標変動係数 V_c	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
25%						

- (3) W/Cと固化材量
室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。
 $X_t = X_f / \alpha_n$
 X_t ：室内配合強度
 X_f ：配合強度
 α_n ：現場/室内強度比（強度比 0.6）
- (4) 注入固化ミルクの配合及び使用量は、下記を原則とする。
（事前に現状土による室内配合試験を実施し、配合量を決定する。）
① 固化材料：T L-3E（特殊土用セメント系固化材）
水（飲料水・工業用水等）
② 配合：W/C=80%
③ 使用量：添加量=350kg/m³とする。

8 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するために下記に示す項目について施工管理する。
① 形状・寸法
鉛直性：改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。
コラム芯：事前にコラム芯にマークを設ける。
掘削深度：深度計で計測し記録する。
改良径：攪拌装置の形状・寸法を記録する。
② セメントミルク
材料：水、固化材を計量する。
ミルク比重：比重計（マッドバランス等）で計測する。
ミルク吐出量：流量計で計測し記録する。
③ 攪拌混合度
貫入・引き上げ速度：速度計で計測し記録する。
攪拌装置：掘削翼、攪拌翼の枚数を確認する。
④ 下部地盤
掘進速度、オーガー抵抗値（電流値またはトルク値）
：掘削深度は速度計で管理する。
：支持地盤確認は掘削中のオーガーの抵抗値によりで管理する。
⑤ 改良天端処理
コラム頭部の位置を所定の仕上がり高さにするため、施工後適切な時期にバックホー等でコラム頭部を削り取って天端処理を行う。ただし、深基礎等、現場状況により改良天端処理が不可能な場合は、根切り工掘削時に改良体を損傷しないようにコラム頭部を削り取ること。
- (2) 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数
① 検査対象群は概ねコラム100本を1単位とする。
② 検査対象層は（ 礫混じりシルト ）であり設計対象層を（ 礫混じりシルト ）とする。
③ 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。その場合は、選定工法による改良体の強度のバラツキデータを添付すること。
④ 調査ヶ所数（検査対象群に対して）

表 2 調査ヶ所数		
検査手法A	頭部コア	(1ヶ所/100ｺﾗﾑ) × 3本（材令28日）
検査手法A	深度コア	(1ヶ所/100ｺﾗﾑ) × 9本（材令28日上中下各3本）

- (2) コア採取率による調査
コアボーリング調査の内、検査対象群1単位につき1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%、深さ1m毎に、粘性土で85%、砂質土で90%以上であることを確認する。礫等を有する地層はサンプリング時のサンブラーの回転切削により固化部分が崩れるので、コア採取率による連続性の判定は、上述の目安値と地盤条件などを加味して総合的に行う。
- (3) 合否の判定
① 設計対象層についての抜き取り1ヶ所に対し3個の供試体採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
③ 検査手法Aによる品質検査
合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。
 $X_N \geq X_t = F_c + k_a \cdot \sigma_d = F_c + k_a \{ F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d) \}$
 X_N ：Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値
 X_t ：合格判定値
 F_c ：設計基準強度
 k_a ：合格判定係数
 σ_d ：標準偏差 $\sigma_d = V_d \cdot q_d$
 V_d ：変動係数、性能証明による

表 3 合格判定係数						
抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

- (4) 六価クロム溶出試験
配合計画段階に、六価クロム溶出試験を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。尚、試験方法は、セメント及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領によるものとする。
（平成3年8月23日環境庁告示第46号（土壌の汚染に係る環境基準）による。）
検査検体数、検査対象層、基準値は下記のものとする。
検体数：1検体
対象層：設計対象層
基準値：0.05mg/L 以下

10 報告

- 工事了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。
① コラムの伏図及び番号
② コラムの施工日
③ コラムの径及び長さ
④ 掘削深度
⑤ 掘削抵抗及び引き抜き抵抗
⑥ ミルクの配合と固化材の使用量
⑦ コアの強度管理試験結果
⑧ 合格判定結果

竣工年月日	..	..		後にくるき 株式会社 大建設 一般建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号			DATE	2025 . 3 . 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造
監理者印							PROJ. NO		DWG. TITLE	NS (A1) 深層混合処理工法特記仕様書	DWG. NO
施工者印							0-2023-120		SCALE	NS (A3)	S-515

梁貫通孔補強材 **ダイヤレン**設計・施工標準仕様書
(BCJ-C1419 (変1))

1. 一般事項

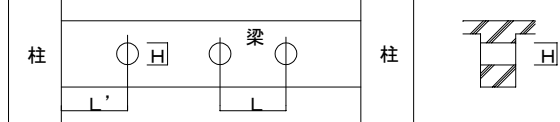
- (1) 本仕様書は、ダイヤレンの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- (2) 本標準図に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」による。

2. 使用材料の適用範囲

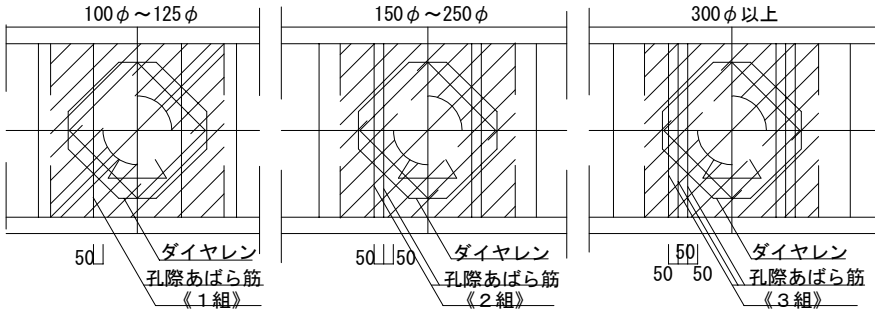
- (1) コンクリート
F c =180～360 kgf/cm²
- (2) 鉄筋
・主筋 : SD295A, SD295B, SD345, SD390
・あばら筋 : SD295A, SD295B, SD345, SD390
・ダイヤレン : SD295A, SD295B, SD345

3. 貫通孔適用範囲

- (1) 形状は円形または円に内接する矩形とし、矩形開口の場合その外接円を開口として設計する。
- (2) 開口径 (H) は梁せいの1／3以下とする。
- (3) 開口中心間距離 (L) は開口径の3倍以上とする。また、隣り合う開口径が異なる場合、大きい径の3倍以上とする。
- (4) 上下方向の開口位置は、梁せいの中心付近とする。
- (5) 横方向の開口位置は、柱際から開口中心までの距離 (L') を梁せい以上とする。



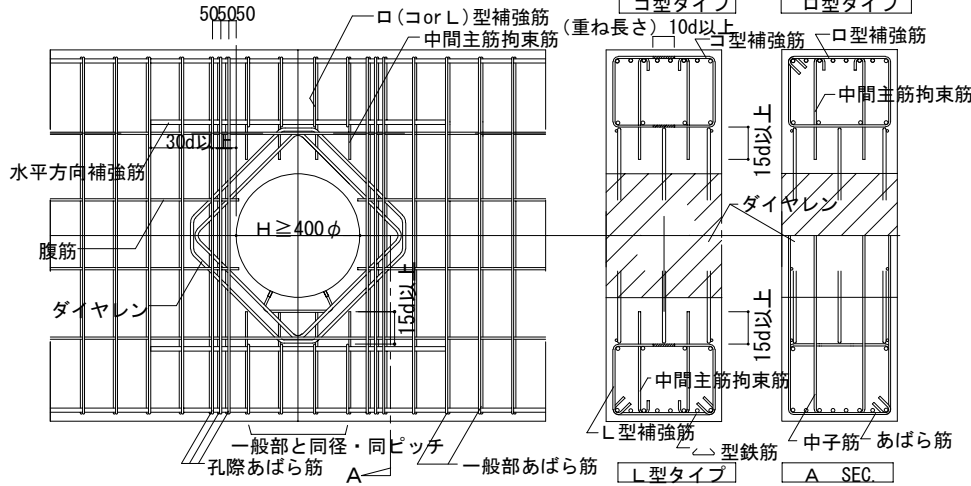
4. ダイヤレン標準配筋図 (孔際あばら筋の配筋要領)



※開口を有する区間 (補強有効範囲) のあばら筋の配置に当たっては次の点を守る事を原則とする。

- (1) 孔際あばら筋の組数は孔径に応じて上図のように配筋する。
- (2) 補強有効範囲内のあばら筋組数は一般部あばら筋ピッチによる組数以上とする。

5. 大孔径の場合の補強方法 (400φ以上の場合)



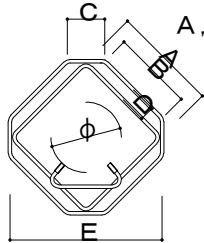
- ・水平方向補強筋の鉄筋径は一般部あばら筋の径より1段上の鉄筋径以上とする。
- ・水平方向補強筋の上下位置はダイヤレン外リングの上下筋に近接した位置とする。
- ・中間主筋拘束筋は、一般部あばら筋が中子タイプの場合のみ必要となる。
- ・水平方向補強筋の本数は一般部あばら筋と同本数をそれぞれ上下に配筋する。

標準加工寸法

6. ダイヤレン標準加工寸法表

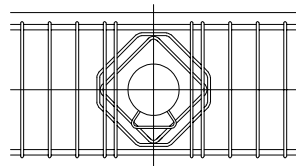
スリーブ径 タイプ		各寸法					ヘリあき H ₀	シール色
		A	B	C	D	E		
100φ	D10	196	116	113	40	282	186	青
	D13	200	100	136	50	291	192	赤
	D16	235	115	163	60	340	218	黄
	D19	250	122	169	60	354	227	緑
	D22	250	122	169	60	354	228	橙
	D25	335	173	212	75	474	290	白
125φ	D10	222	142	113	40	318	204	青
	D13	225	125	136	50	326	210	赤
	D16	250	130	163	60	362	229	黄
	D19	270	142	169	60	382	241	緑
	D22	270	142	169	60	382	242	橙
	D25	335	173	212	75	474	290	白
150φ	D10	250	170	113	40	358	224	青
	D13	251	151	141	50	362	228	赤
	D16	290	170	163	60	418	257	黄
	D19	290	162	169	60	418	259	緑
	D22	290	162	169	60	418	260	橙
	D25	335	173	212	75	474	290	白
175φ	D10	275	195	113	40	394	242	青
	D13	276	176	141	50	397	245	赤
	D16	310	190	163	60	446	271	黄
	D19	310	182	169	60	446	273	緑
	D22	310	182	169	60	446	274	橙
	D25	335	173	212	75	474	290	白
200φ	D10	300	220	107	40	432	261	青
	D13	303	203	141	50	435	264	赤
	D16	330	210	163	60	475	286	黄
	D19	335	207	169	60	474	287	緑
	D22	335	207	169	60	474	288	橙
	D25	335	173	212	75	474	290	白
250φ	D13	350	250	136	50	503	298	赤
	D16	370	220	205	75	531	314	黄
	D19	370	212	212	75	531	315	緑
	D22	370	212	212	75	531	317	橙
	D25	420	208	283	100	594	350	白
	D13	400	300	136	50	574	334	赤
300φ	D16	420	270	205	75	602	349	黄
	D19	420	262	212	75	602	351	緑
	D22	420	262	212	75	594	348	橙
	D25	420	208	283	100	594	350	白
	D13	450	350	136	50	644	369	赤
	D16	470	320	205	75	673	385	黄
350φ	D19	470	312	212	75	673	386	緑
	D22	470	312	212	75	673	388	橙
	D25	520	308	283	100	735	420	白
	D16	520	370	205	75	743	420	黄
	D19	520	362	212	75	743	421	緑
	D22	520	362	212	75	743	423	橙
400φ	D25	520	308	283	100	735	420	白
	D16	570	420	205	75	814	455	黄
	D19	570	412	212	75	814	457	緑
	D22	570	412	212	75	814	458	橙
	D25	650	438	283	100	919	512	白
	D16	650	500	205	75	927	512	黄
500φ	D19	650	492	212	75	927	513	緑
	D22	650	492	212	75	927	515	橙
	D25	650	438	283	100	919	512	白
	D19	700	542	212	75	998	549	緑
	D22	700	542	212	75	998	550	橙
	D25	700	492	283	100	998	552	白
550φ	D19	750	592	212	75	1069	584	緑
	D22	750	592	212	75	1069	586	橙
	D25	750	542	283	100	1069	587	白
	D19	800	642	212	75	1139	619	緑
	D22	800	642	212	75	1139	621	橙
	D25	800	600	283	100	1139	622	白
650φ	D19	850	692	212	75	1210	655	緑
	D22	850	692	212	75	1210	656	橙
	D25	850	642	283	100	1210	658	白
	D19	900	742	212	75	1283	691	緑
	D22	900	742	212	75	1283	693	橙
	D25	900	692	283	100	1283	694	白

A, B, C, D, Eの各値は鉄筋芯の寸法を示す。



7. 施工要領

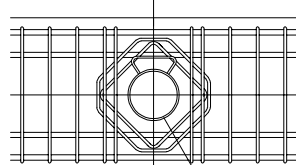
- ・RC造有孔梁の場合
- (1) 型枠上にスリーブの心出しを行い、スリーブ両脇の孔際あばら筋を孔際より50mm程度離して配置する。
- (2) ダイヤレンはあばら筋の内側に挿入し、孔際あばら筋等に結束する。



〈RC造の場合〉

- ・SRC造有孔梁の場合

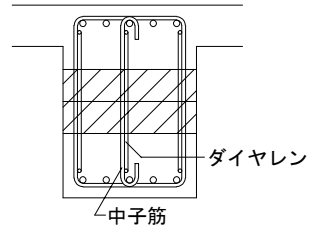
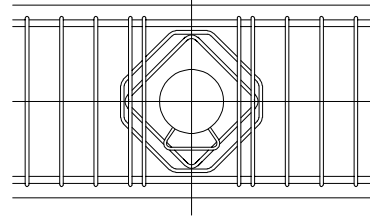
- (1) あばら筋の配筋前に、鉄骨スリーブ管にダイヤレンをセットし、配筋後孔際あばら筋等に結束する。



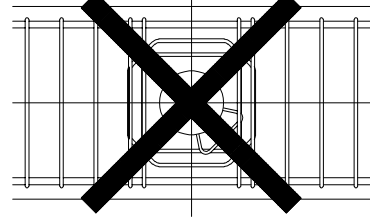
〈SRC造の場合〉

8. 施工における注意事項

- (1) 補強設計によってダイヤレンが3枚以上になった場合は下図のように中子筋等に結束する。



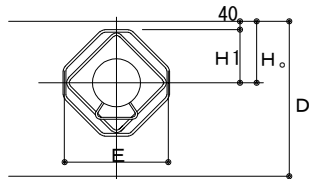
- (2) ダイヤレンはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図のような取り付けは、絶対行わないこと。



施工不可

9. 開口芯のヘリあき

- (1) 各ダイヤレンを使用した場合のコンクリート面より孔心までのヘリあき寸法 (H₀) を左表に示す。
- (2) ダイヤレンの被り厚さを40mmとしてヘリあき寸法を決めている。



$$H_1 = E / 2 + \text{鉄筋径} / 2$$
$$H_0 = 40 + H_1$$



コーリョー建販株式会社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-4-3

TEL 03-6902-5451 (代) FAX 03-6902-5453

http://www.koryo-kenpan.co.jp

E-Mail: info@koryo-kenpan.co.jp

仙台 〒984-0816 仙台市若林区河原町 1-7-14

TEL 022-261-8985 FAX 022-265-1263

名古屋 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-3-23

TEL 052-228-7061 FAX 052-228-7062

大阪 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 3-7-8

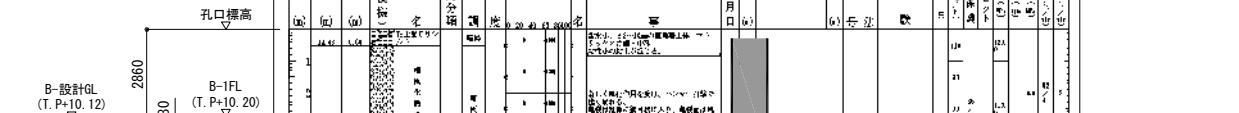
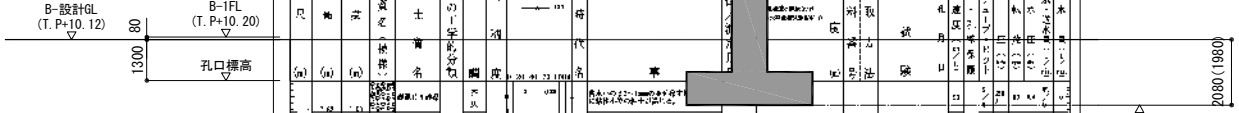
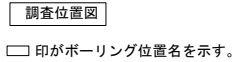
TEL 06-6444-7751 FAX 06-6444-7753

広島 〒730-0052 広島市中区千田町 3-9-6

TEL 082-246-7235 FAX 082-246-7245

九州 〒812-0014 福岡市博多区博多駅南 3-1-1

TEL 092-452-8020 FAX 092-452-8021



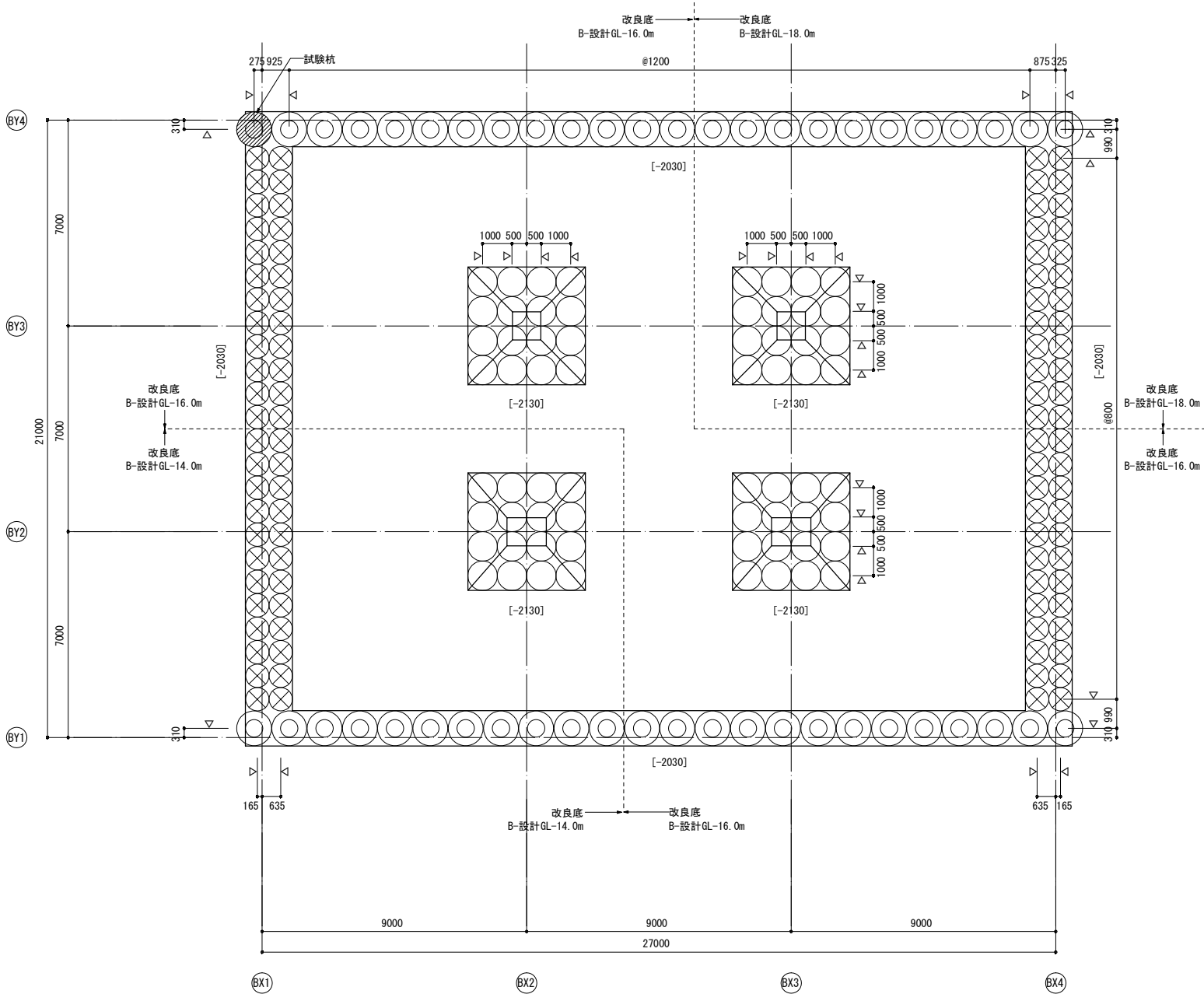
竣工年月日	..	..		株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造
監理者印	..	..									
	..	..									
施工者印	..	..						PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	土質柱状図 (1)
								SCALE			

[illegible]

<table border="1"> <tr> <td>総 脂 肪 量</td> <td>15.00g</td> </tr> </table>	総 脂 肪 量	15.00g																				
総 脂 肪 量	15.00g																					

[illegible][illegible][illegible]

竣工年月日	..	..		 株式会社 大建設計 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ノ)404号			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE 防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造	
監理者印	..	..					PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE 土質柱状図 (2)	NS (A1) NS (A3)	DWG. NO S-518
施工者印	..	..									
	..	..									

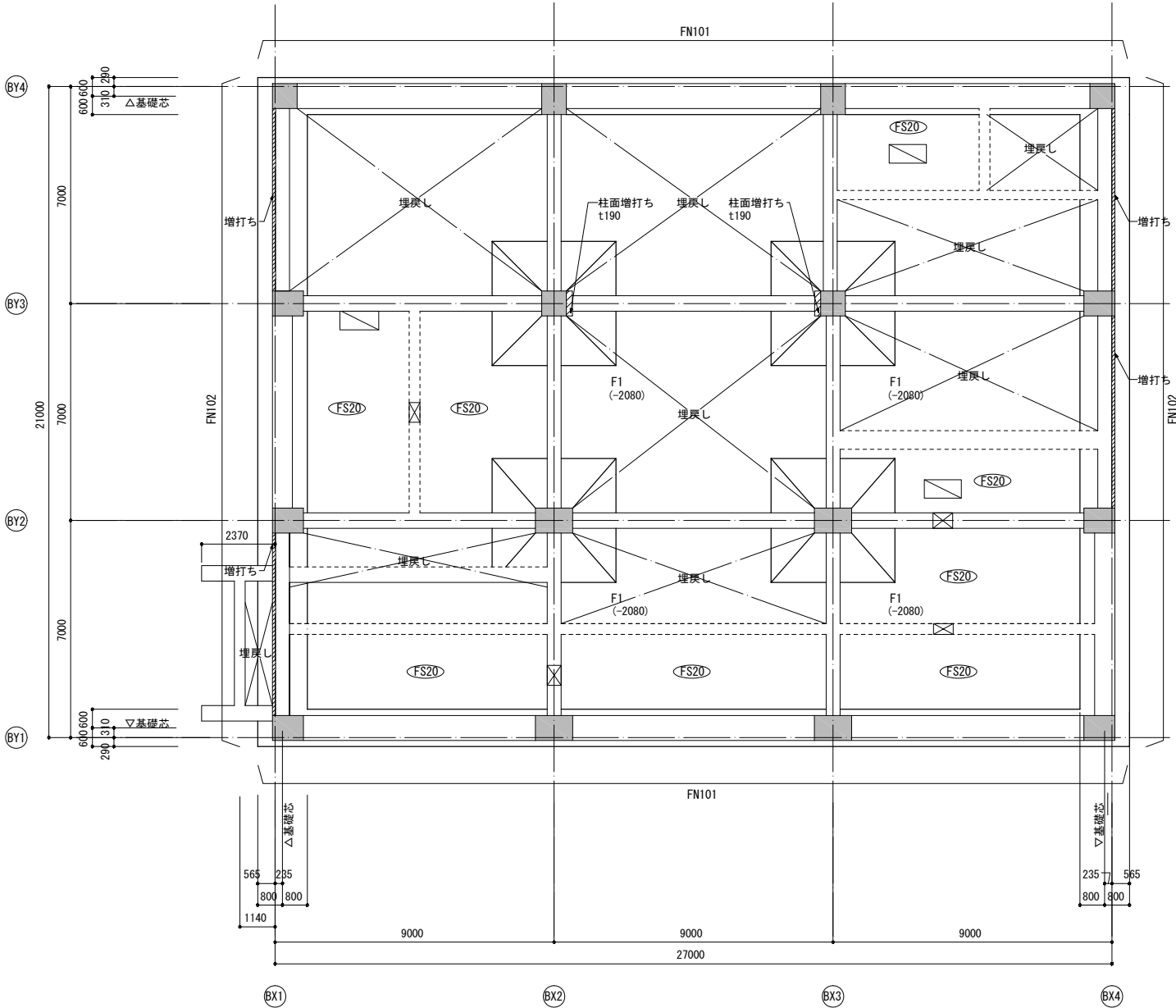


地盤改良図

特記なき限り下記による。

- B-設計GL=T. P+10. 12とする。
- は柱状改良位置を示し、改良径は 1200φとする。
○は柱状改良位置を示し、改良径は 1000φとする。
⊗は柱状改良位置を示し、改良径は 800φとする。
- 支持層は風化酸性凝灰岩層とし、改良天端レベルでの
設計用長期地耐力は 320kN/m²、短期地耐力は 450kN/m²とする。
- [] 内数値は、B-設計GLからの柱状改良天端位置を示す。
- ◊印は、試験杭（1 か所）を示す。

- ◊印は柱状改良芯を示す。
- 柱状改良に関して、施工の際には試験施工を実施し、
土質性状と電流値トルク値の相関関係を調査する。
支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘削速度が
保持できない、または貫入できない地点にて判断する。



基礎伏図

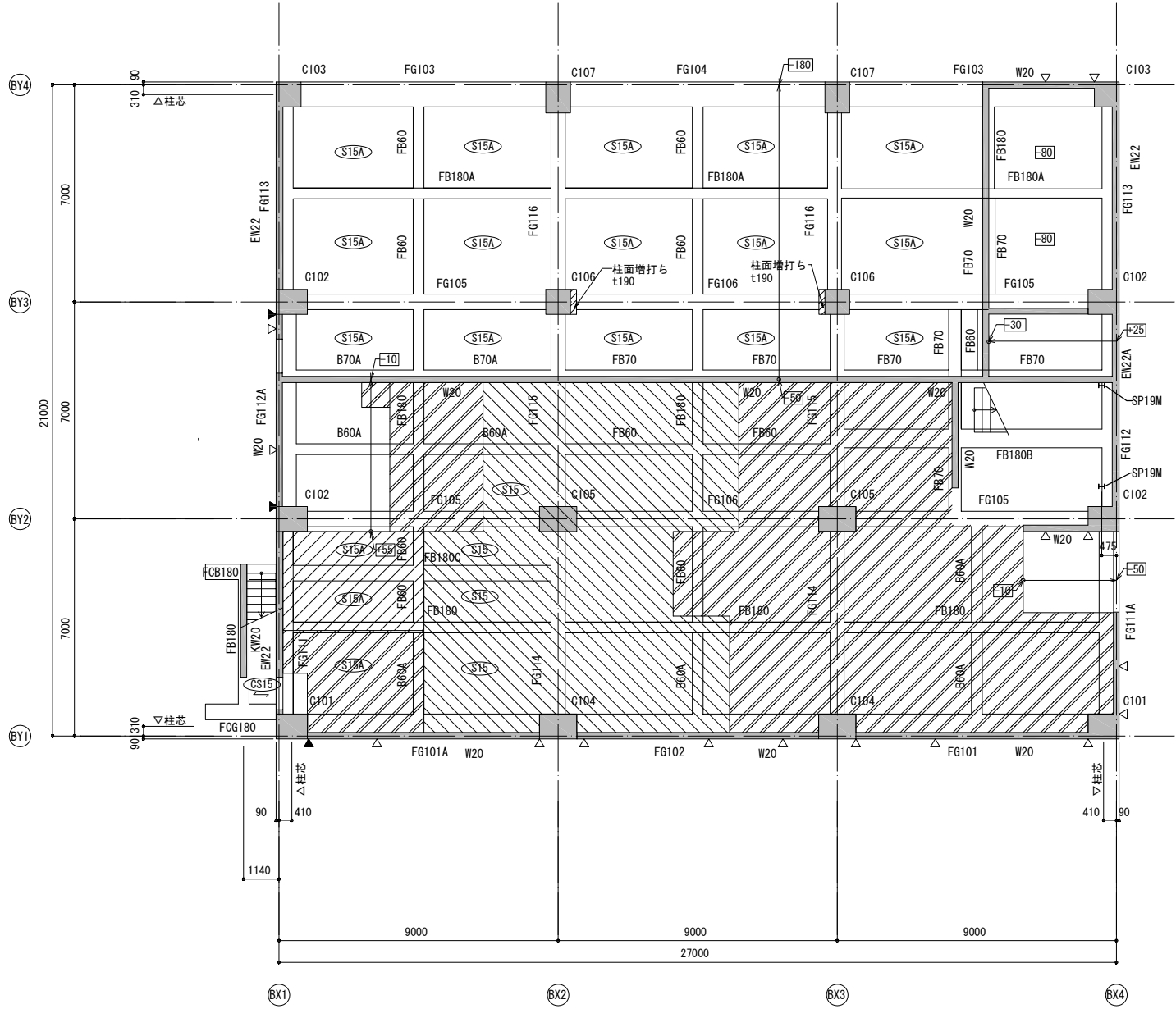
特記なき限り下記による。

- B-設計GL=B-1FL-80 (T. P+10. 120) とする。
- 基礎下端レベルは、B-設計GL-1980とする。
() 内数値は、B-設計GLからの基礎下端レベルを示す。
- 底盤天端レベルは、B-1FL-1860とする。
- ◻ 印は、人通孔を示す。(径は意匠図による)
- ◻ 印は釜場をしめす。
- 水勾配は増打ちとする。

柱状改良に関して、施工の際には試験施工を実施し、

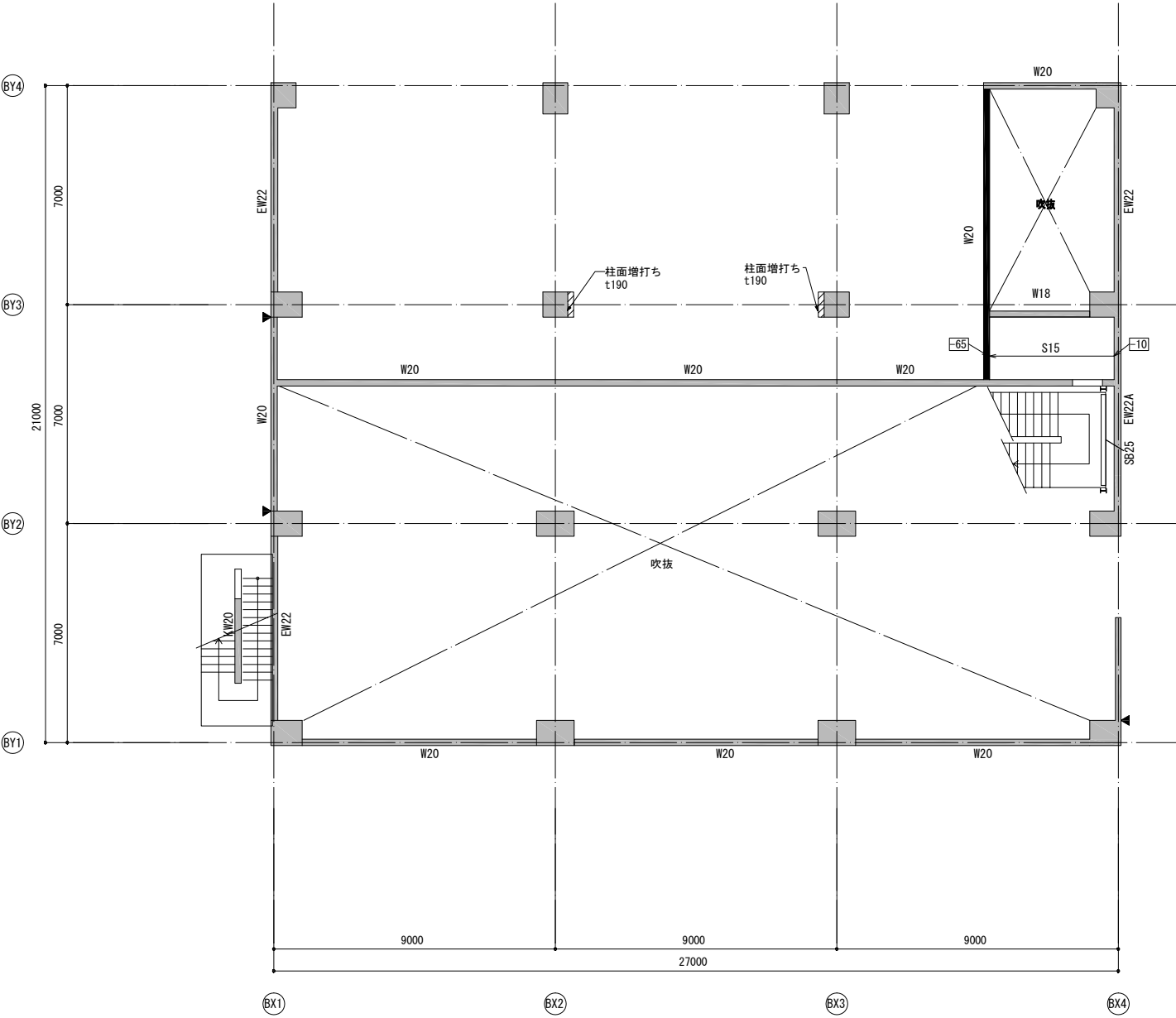
支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘削速度が
保持できない、または貫入できない地点にて判断する。

竣工年月日	..	..		株式会社	技にこころを	DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造
監理者印				大建設計		PROJ. NO				DWG. TITLE		DWG. NO
施工者印				一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(レ)404号		0-2023-120				地盤改良・基礎伏図 SCALE 1:200 (A3)	S-519	



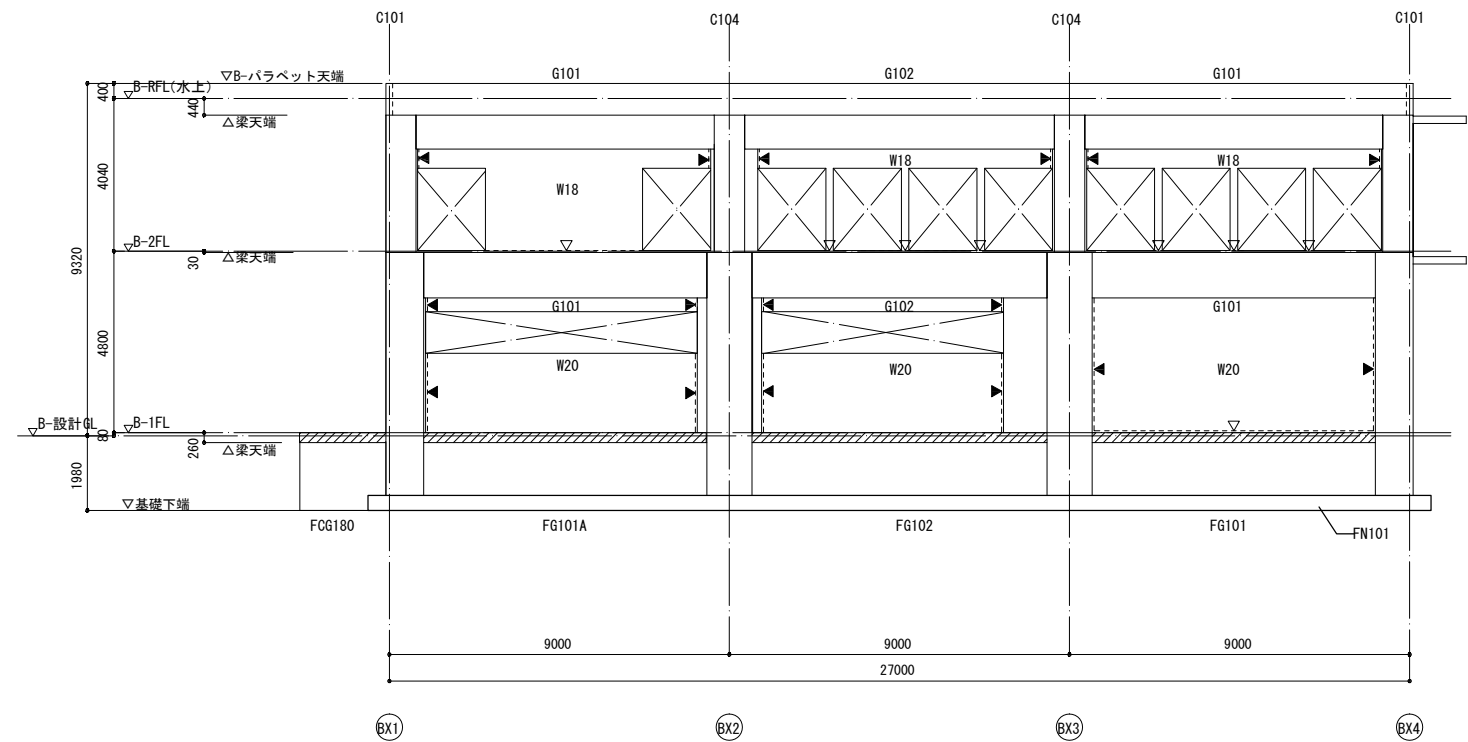
1階伏図

- 特記なき限り下記による。
1. B-1FL=B-設計GL+80とする。
 2. スラブ符号はS15とする。
 3. スラブ天端レベルは、B-1FL-10とする。
 4. 印はスラブの主筋方向を示し特記なき限り 方向とする。
 5. 梁天端レベルはB-1FL-260とする。
 6. 壁符号はW18とする。
 7. 印は鉛直スリットを、印は水平スリットを示す。
- 範囲は、B-1FL-10とする。
範囲は、B-1FL-40とする。
範囲は、B-1FL-110とする。
内数値は、B-1FLからのスラブ天端レベルとする。
スラブ天端には床仕上げまで増打ちを施す。

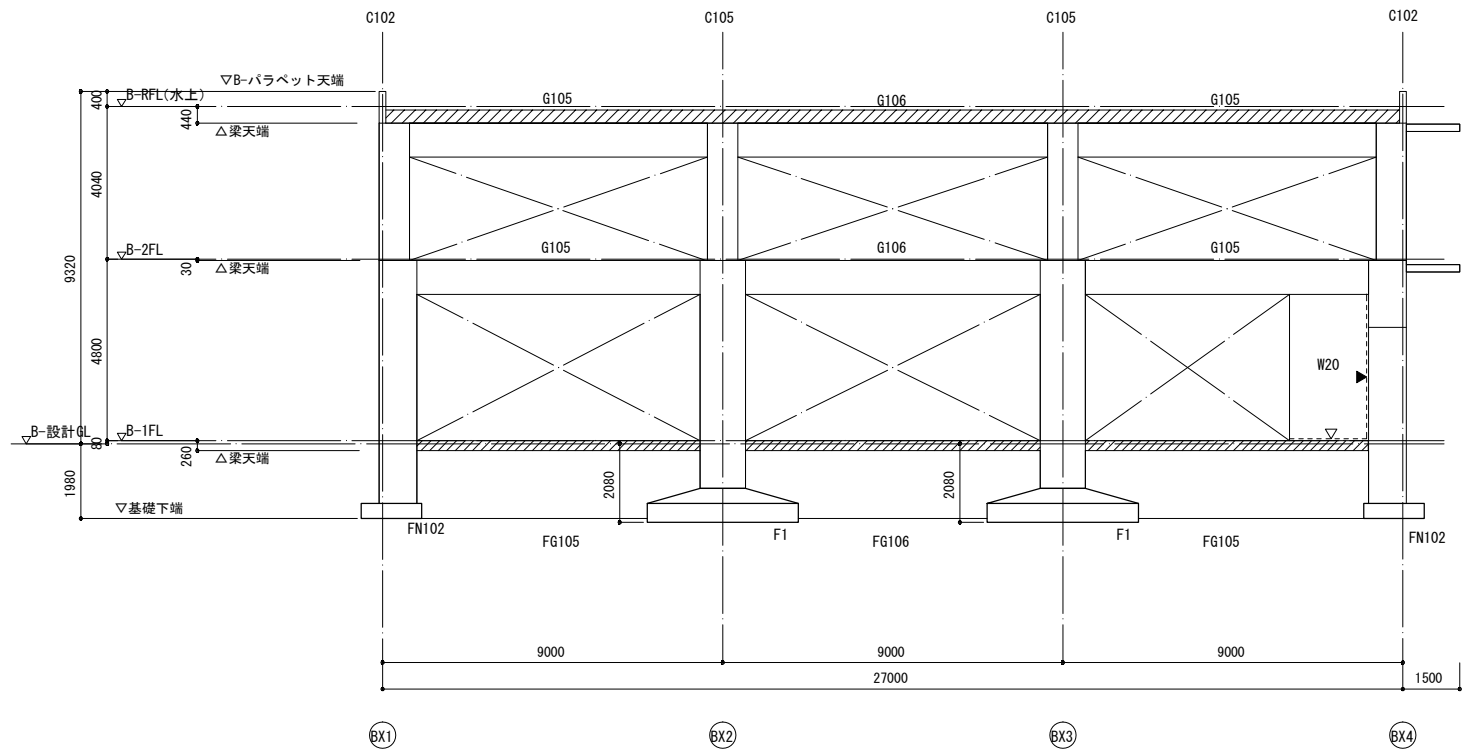


M2階伏図

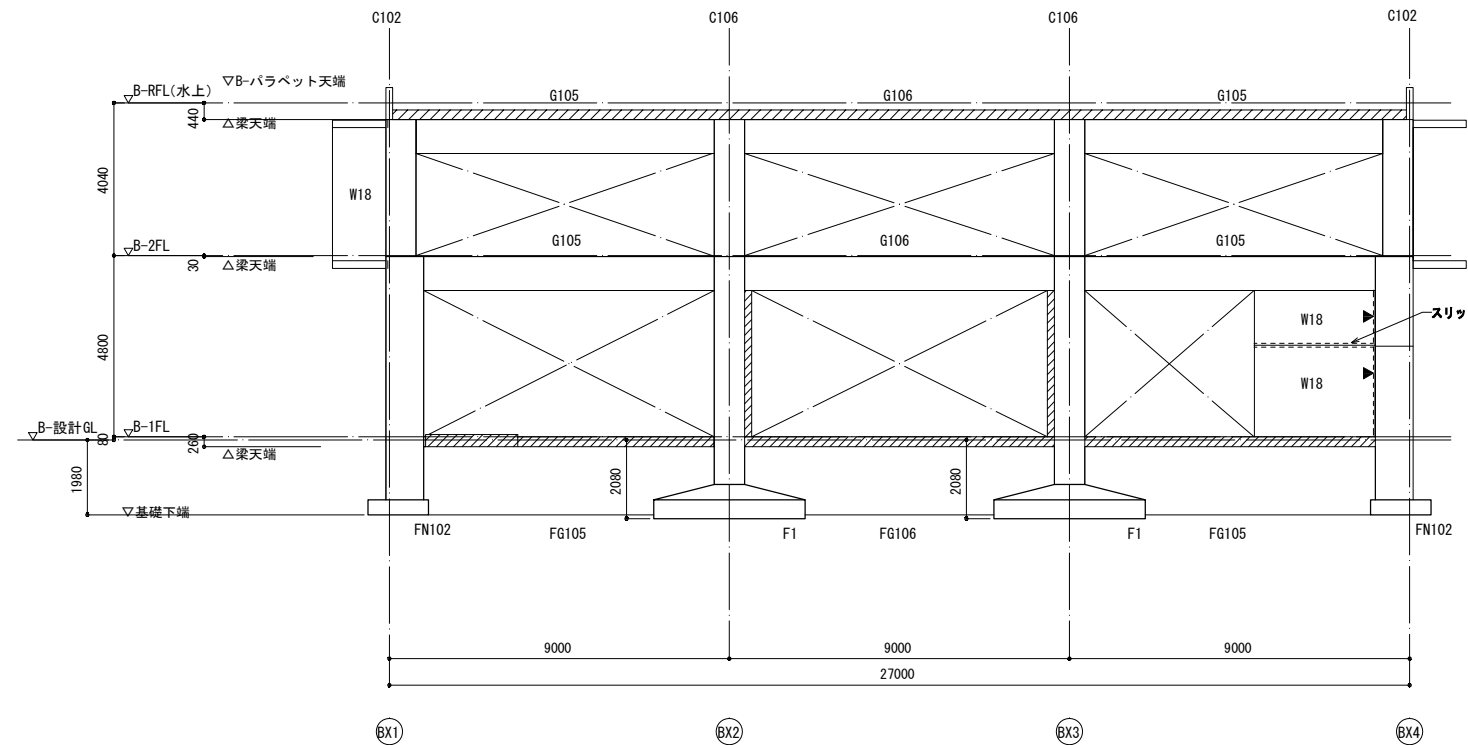
- 特記なき限り下記による。
1. スラブ天端レベルはB-M2FL-65とする。
 2. 壁符号はW18とする。
 3. 印はスラブの主筋方向を示し特記なき限り 方向とする。



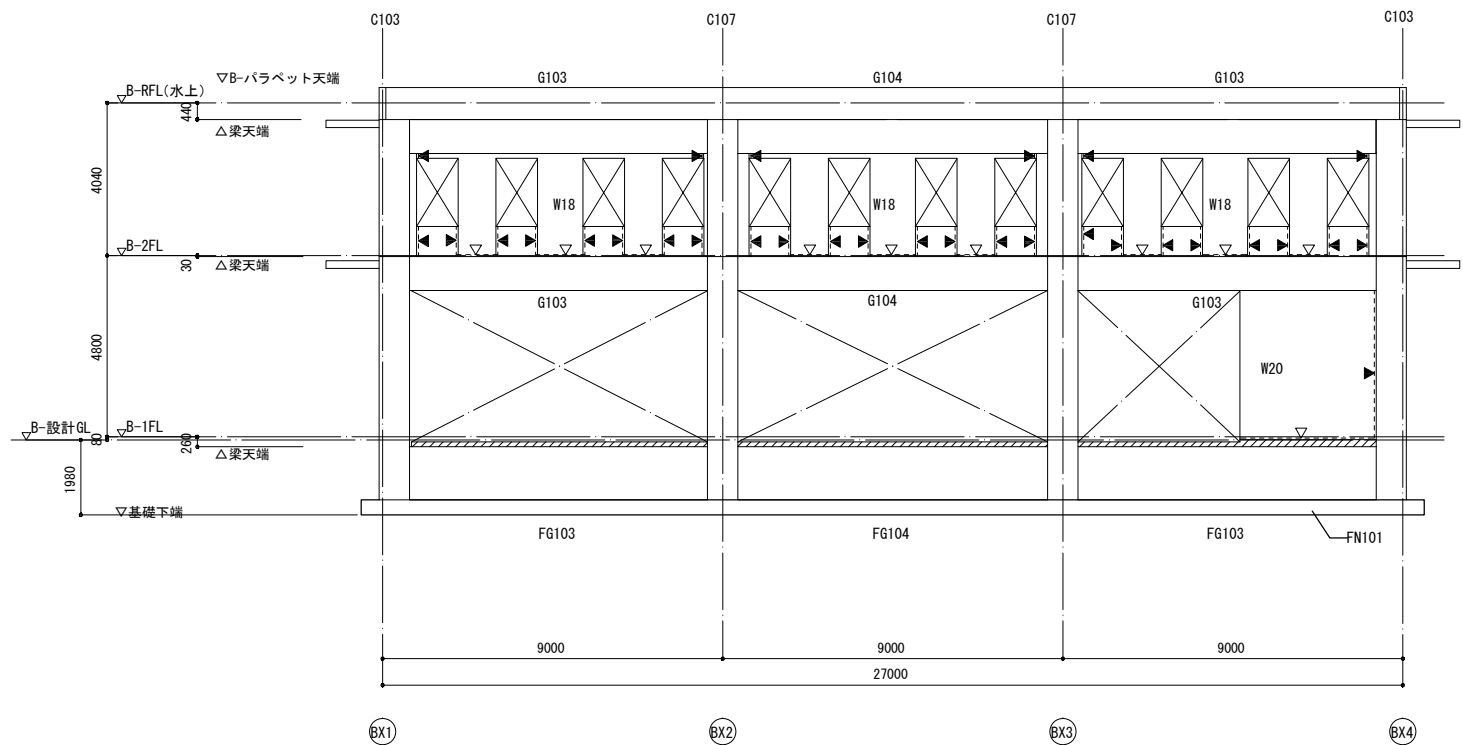
BY1通 軸組図



BY2通 軸組図



BY3通 軸組図

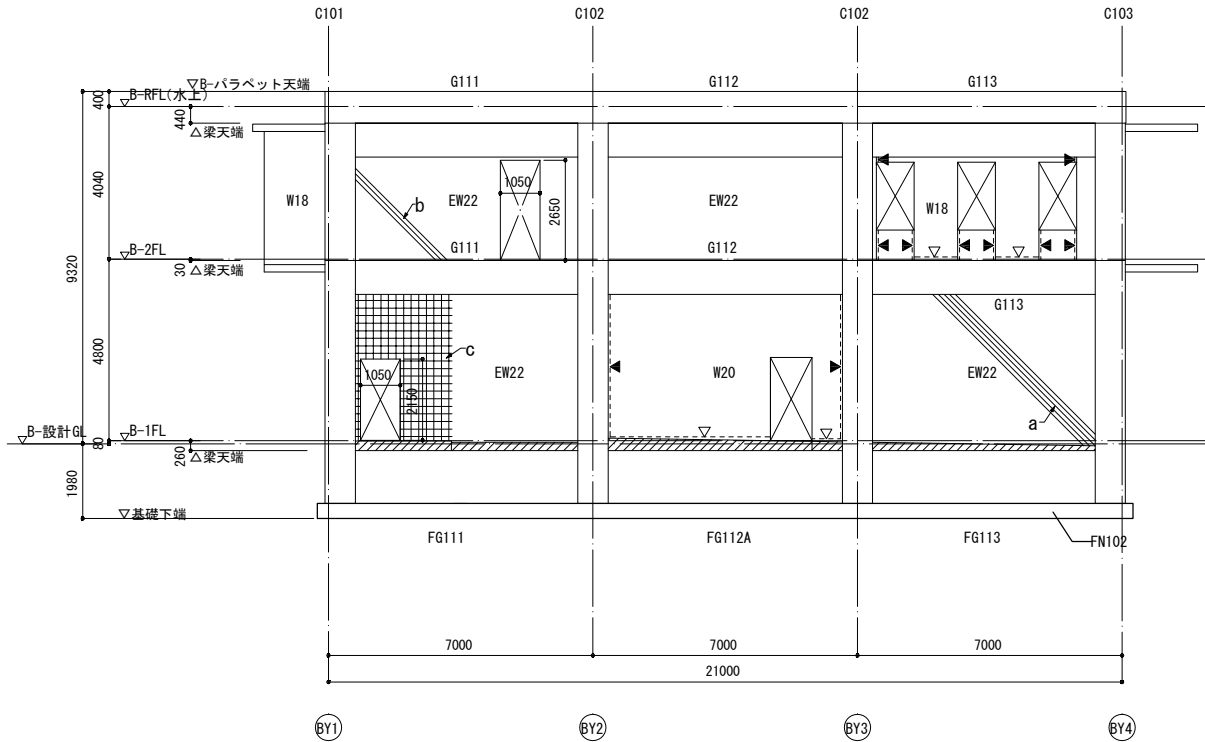


BY4通 軸組図

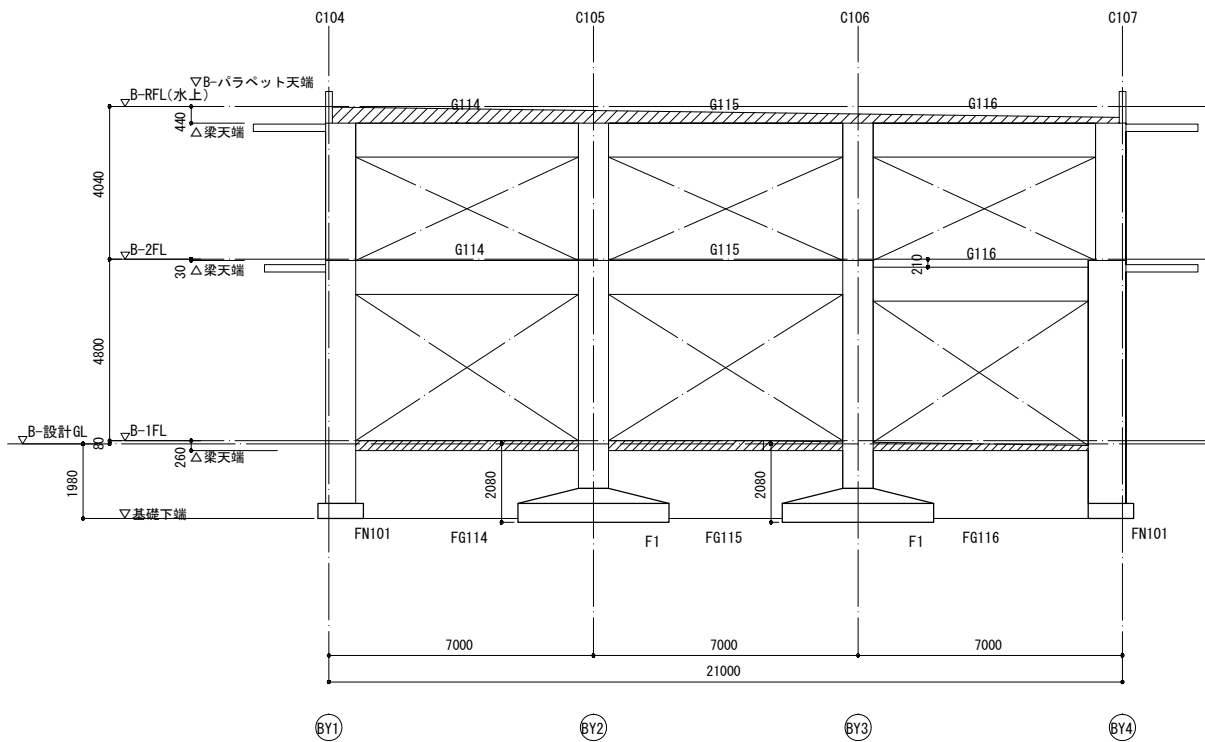
特記なき限り下記による。(各軸組図共通)

1. 印は、増打コンクリートを示す。
2. ▼印は鉛直スリットを、▽印は水平スリットを示す。
3. ひび割れ防止の壁補強は下記仕様とする。
 - a:5-D13(ダブル)
 - b:3-D13(ダブル)
 - c:溶接金網φ6x100

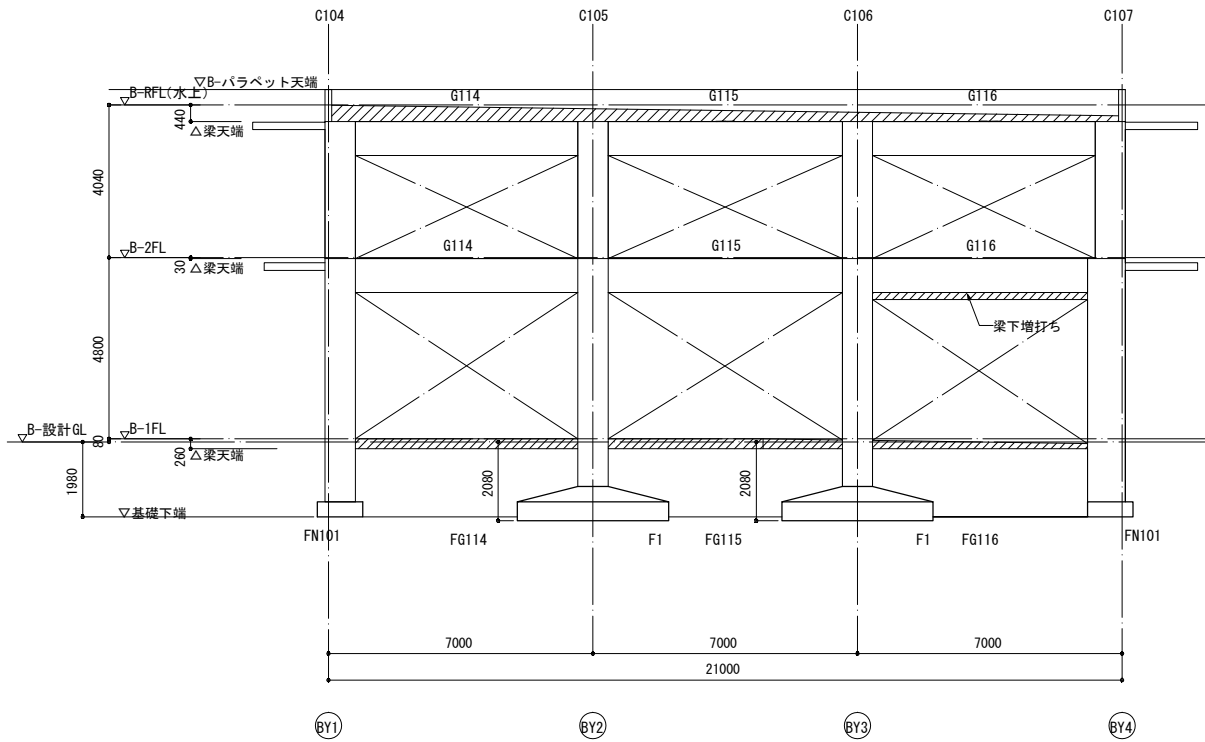
竣工年月日	..	..		株式会社	技にこころを	DATE	2025	3	14	PRJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造
監理者印		..								PRJ. NO	0-2023-120	【消防】 構造
施工者印		..		大建設						PRJ. TITLE	軸組図 (1)	【消防】 構造
		..		一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(レ)404号						SCALE	1:100 (A1) 1:200 (A3)	DWG. NO S-522



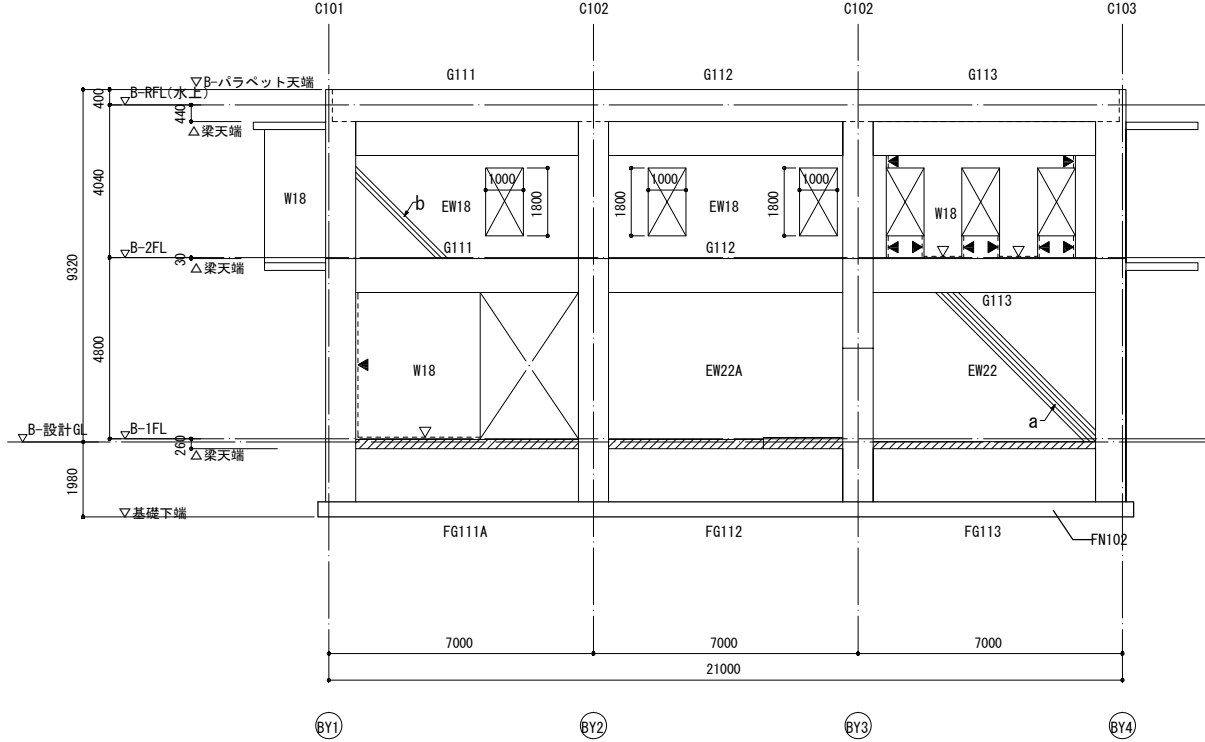
BX1通 軸組図



BX2通 軸組図



BX3通 軸組図



BX4通 軸組図

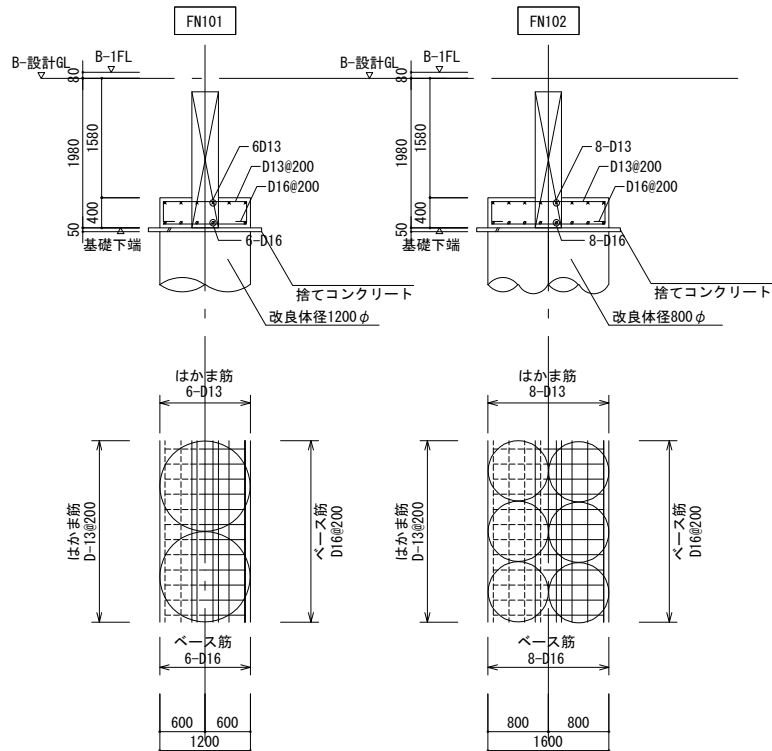
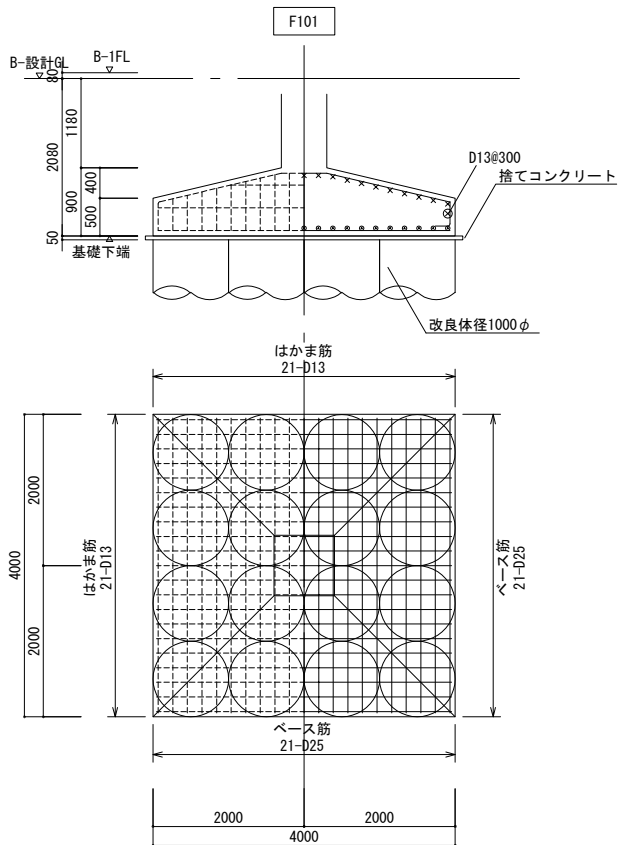
特記なき限り下記による。(各軸組図共通)

- 斜線印は、増打コンクリートを示す。
- ▼印は鉛直スリットを、▽印は水平スリットを示す。
- ひび割れ防止の壁補強は下記仕様とする。
 - a:5-D13(ダブル)
 - b:3-D13(ダブル)
 - c:溶接金網φ6x100

竣工年月日	..	..		株式会社 大建設計 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(レ)404号	技にこころを			DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造	
監理者印								PROJ. NO	0-2023-120			DWG. TITLE	1:100 (A1) 軸組図 (2)	DWG. NO	S-523
施工者印												SCALE 1:200 (A3)			

基礎リスト

特記無き限り下記による



基礎梁リスト

1. 主筋の継手位置は、S-003 6. A (2)「(B)独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合」とする。 2. 幅止め筋 D10@1000以内 3. 柱をまたいで引き通せない主筋の定着は機械式定着工法（SABTEC評価）とする。

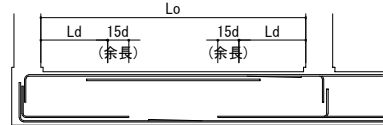
符 号	FG101			FG101A			FG102		FG103			FG104	
位 置	BX3端	中央	BX4端	BX1端	中央	BX2端	両端	中央	BX1・BX4端	中央	BX2・BX3端	両端	中央
▽B-1FL	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260
断 面													
BxD	800x1800			800x1800			800x1800		800x1800			800x1800	
上端筋	8-D29	11-D29	8-D29	12-D29	12-D29	8-D29	8-D29	11-D29	6/2-D29	8-D29	8-D29	6-D29	8-D29
下端筋	16-D29	12-D29	6-D29	6-D29	12-D29	16-D29	16-D29	6-D29	6-D29	12-D29	14-D29	12-D29	6-D29
Ld													
上端筋													
下端筋							3100					3100	
肋 筋	Ⅲ-D13 @200			Ⅲ-D13 @200			Ⅲ-D13 @200		Ⅲ-D13 @200			Ⅲ-D13 @200	
腹 筋	10-D13			10-D13			10-D13		10-D13			10-D13	
備 考													

符 号	FG105		FG106		FG111	FG111A		FG112	FG112A		FG113	FG114	
位 置	BX2・BX3端	他端・中央	両端	中央	全断	BY1端・中央	BY2端	全断	両端	中央	全断	BY1端・中央	BY2端
▽B-1FL	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260
断 面													
BxD	500x1800		500x1800		450x1800	650x1800		450x1800	650x1800		450x1800	450x1800	
上端筋	7-D25	7-D25	7-D25	5-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	7-D25
下端筋	5-D25	8-D25	5-D25	5-D25	4-D25	6-D25	12-D25	4-D25	12-D25	6-D25	4-D25	5-D25	4-D25
Ld													
上端筋	2500												3000
下端筋							3000		3000				
肋 筋	□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200	Ⅲ-D13 @200		□-D13 @200	Ⅲ-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	
腹 筋	10-D13		10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	10-D13	
備 考													

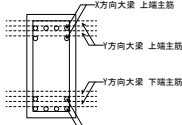
符 号	FG115		FG116		FG180
位 置	両端	中央	BY3端	中央・BY4端	全断
▽B-1FL	260	260	260	260	260
断 面					
BxD	450x1800		450x1800		500x1800
上端筋	7-D25	4-D25	7-D25	4-D25	9-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	5-D25
Ld					
上端筋	2500		2650		
下端筋					
肋 筋	Ⅲ-D13 @200		Ⅲ-D13 @200		Ⅲ-D13 @200
腹 筋	10-D13		10-D13		10-D13
備 考					

共通事項

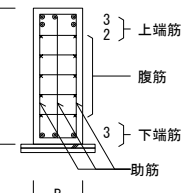
・カットオフ配筋要領
梁端部主筋のカットオフ長さは、MAX(Lo/4, Ld)+余長とする。梁リストにLdの記載がないものはLo/4+余長とする。
カットオフ長さが重なる場合は、カットオフを設けずに通し配筋とすること。



・主筋の上下関係
X方向とY方向の梁先端レベルが同一の場合は、梁主筋を下図の通り配筋のこと。



・基礎梁凡例

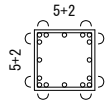
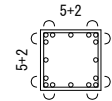
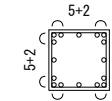
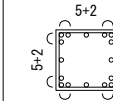
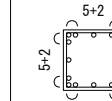
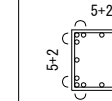
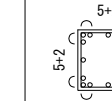
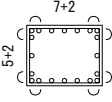
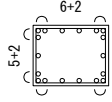
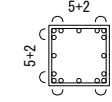
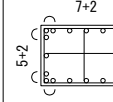
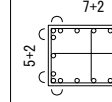
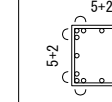
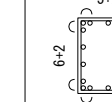


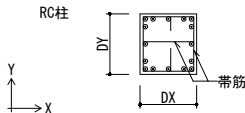
基礎小梁リスト

1. 主筋の継手位置は、S-003 6. A (2)「(B)独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合」とする。 2. 幅止め筋 D10@1000以内

符 号	FB60	FB70	FB180		FB180A		FB180B		FB180C		FCB180
位 置	全断	全断	両端	中央	両端	中央	両端	中央	BX1端	中央・BX2端	全断
▽B-1FL	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260
断 面											
BxD	350x600	400x700	350x1800		350x1800		600x1800		500x1800		500x1800
上端筋	3-D19	5-D22	5-D22	3-D22	6-D25	3-D25	6-D25	6-D25	9-D25	5-D25	9-D25
下端筋	3-D19	5-D22	3-D22	5-D22	3-D25	6-D25	6-D25	12-D25	5-D25	5-D25	5-D25
Ld											
上端筋									3000		
下端筋											
肋 筋	□-D10 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200		Ⅲ-D13 @200		□-D13 @200		Ⅲ-D13 @200
腹 筋	2-D10	2-D10	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13
備 考											

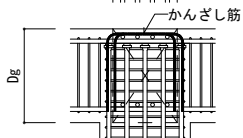
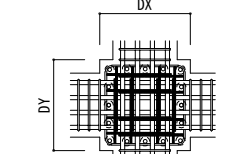
柱リスト		特記無き限り下記による						
		1. 外周帯筋は溶接閉鎖型とする。		2. 主筋の柱頭定着は機械式定着工法 (SABTEC評価) とする。		3.  印は帯筋二重巻きを示す。		

階	符 号	C101	C102	C103	C104	C105	C106	C107
B-2FL	柱頭接合部	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100
	断 面							
	DXxDY	800x800	800x800	800x800	800x800	800x800	800x800	800x800
	主 筋	16-D22	16-D22	16-D22	16-D22	16-D22	16-D22	16-D22
	帯 筋	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100
B-1FL	柱頭接合部	 - D13 @150	 - D13 @150	 - D13 @150	 - D13 @100	 - D13 @100	 -D13 @100	 - D13 @150
	断 面							
	DXxDY	1000x800	1000x800	800x800	1200x800	1200x800	800x800	800x1000
	主 筋	20-D22	18-D22	16-D22	20-D22	20-D22	16-D22	18-D22
	帯 筋	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100	 -D13 @100
柱脚接合部		 - D13 @150	 - D13 @150	 -D13 @100	 - D13 @100	 -D13 @100	 - D13 @150	
備 考								



機械式定着板工法を採用する柱頭部補強要領

原則、機械式定着工法を使用し、下記の要領で
かんざし筋を配置する。

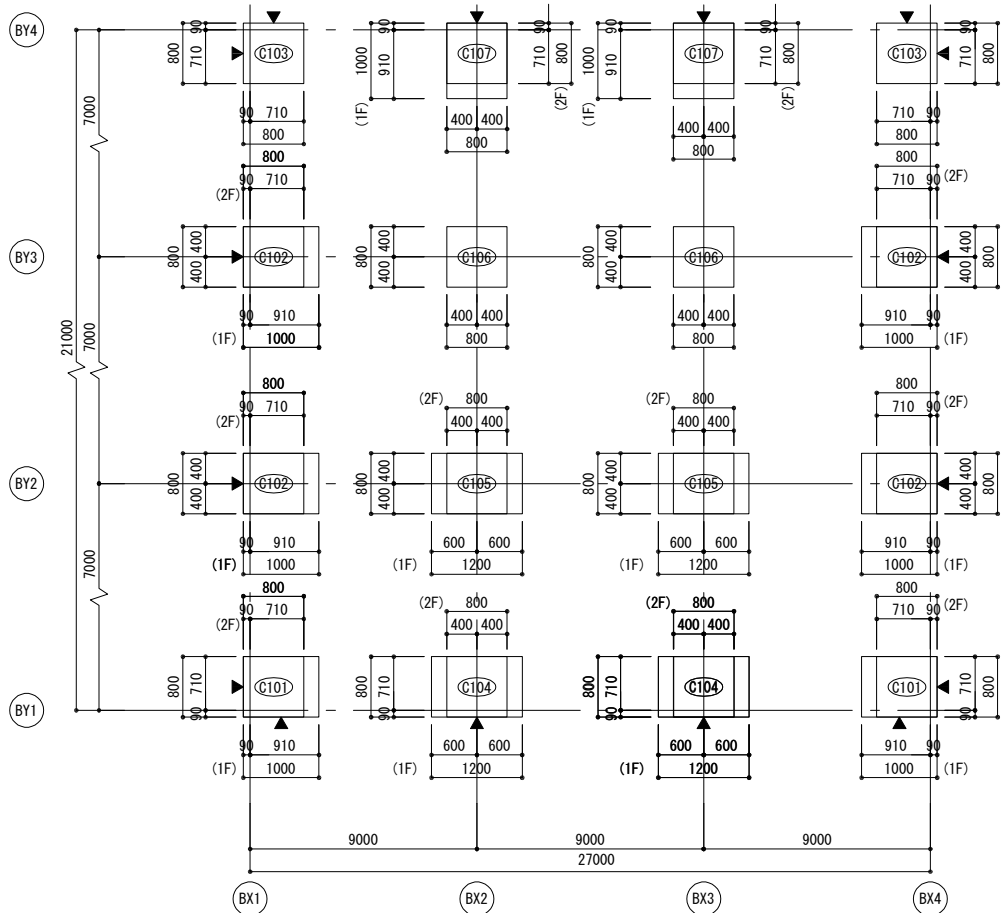


Ld : 脚部の長さは、梁下筋

梁下部までの長さ
と40dの小さい方とする。

柱サイズ		かんざし筋組数	
DX	DY	X方向	Y方向
800	800	D16 - 5組	D16 - 5組
1000	800	D16 - 6組	D16 - 6組
1200	800	D16 - 7組	D16 - 7組
800	1000	D16 - 6組	D16 - 6組

柱芯線図



芯線図 1:50, 1/150

特記無き限り下記による

- ▲ 表示は柱の不動面を示す。
- ▲ 表示がない柱は、通り心と柱心が一致するものとする。

スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	主筋方向		配筋筋方向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S15	150	上端筋	D13@200	← 同 左	D10D13@200	← 同 左	
		下端筋	D10D13@200	← 同 左	D10D13@200	← 同 左	
S15A	150	上端筋	D13@150	← 同 左	D13@200	← 同 左	
		下端筋	D13@150	← 同 左	D13@200	← 同 左	
S15B	150	上端筋	D13@100	← 同 左	D13@200	← 同 左	
		下端筋	D13@200	← 同 左	D10D13@200	← 同 左	
CS15	150	上端筋	D13@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
		下端筋	D10@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
CS20	150～200	上端筋	D13@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
		下端筋	D10@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
CS20A	150～200	上端筋	D13@100	← 同 左	D13@100	← 同 左	
		下端筋	D13@100	← 同 左	D13@100	← 同 左	
FS20	200	上端筋	D13@100	← 同 左	D13@100	← 同 左	
		下端筋	D13@100	← 同 左	D13@100	← 同 左	

壁リスト

特記無き限り下記による						
1. 巾止筋はD10@1000以下とする。						
符 号	W18	W20	EW18	EW22	EW22A	KW20
断 面						
						
						
						
縦 筋	D10-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@200φ"ﾌﾞﾙ	D16-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@150φ"ﾌﾞﾙ
横 筋	D10-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@200φ"ﾌﾞﾙ	D13-@200φ"ﾌﾞﾙ	D16-@200φ"ﾌﾞﾙ	D10-@200φ"ﾌﾞﾙ
開 口	縦	2-D13	2-D13	2-D13	3-D13	2-D13
	横	2-D13	2-D13	4-D16	4-D16	2-D13
補強筋	斜	2-D13	2-D13	4-D16	4-D16	2-D13
備 考						

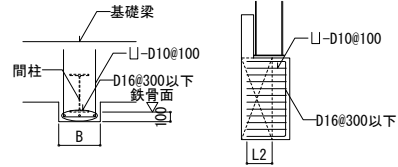
鉄骨造部材リスト

特記無き限り下記による

- 高力ボルト種別は、F10T (S10T) 相当とする。
- 継手仕様は、S-114小梁 継手  による。

符 号	断 面	接 合	備 考
SB25	H -250x125x6x9	SS400	G. PL-9x90x200, 3-M16
SB20*	H -250x125x6x9	SS400	S-528図による
SB19M*	H -250x125x6x9	SS400	S-528図による
SP19M	H -194x150x6x9	SS400	

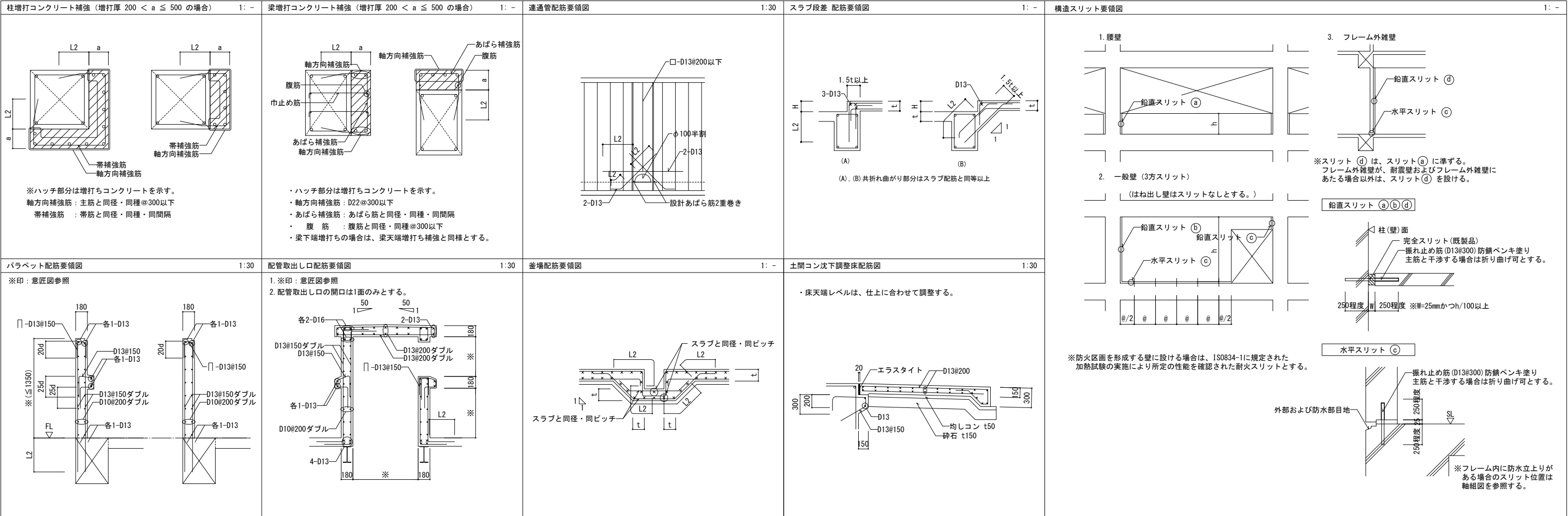
間柱受け礎柱配筋要領図

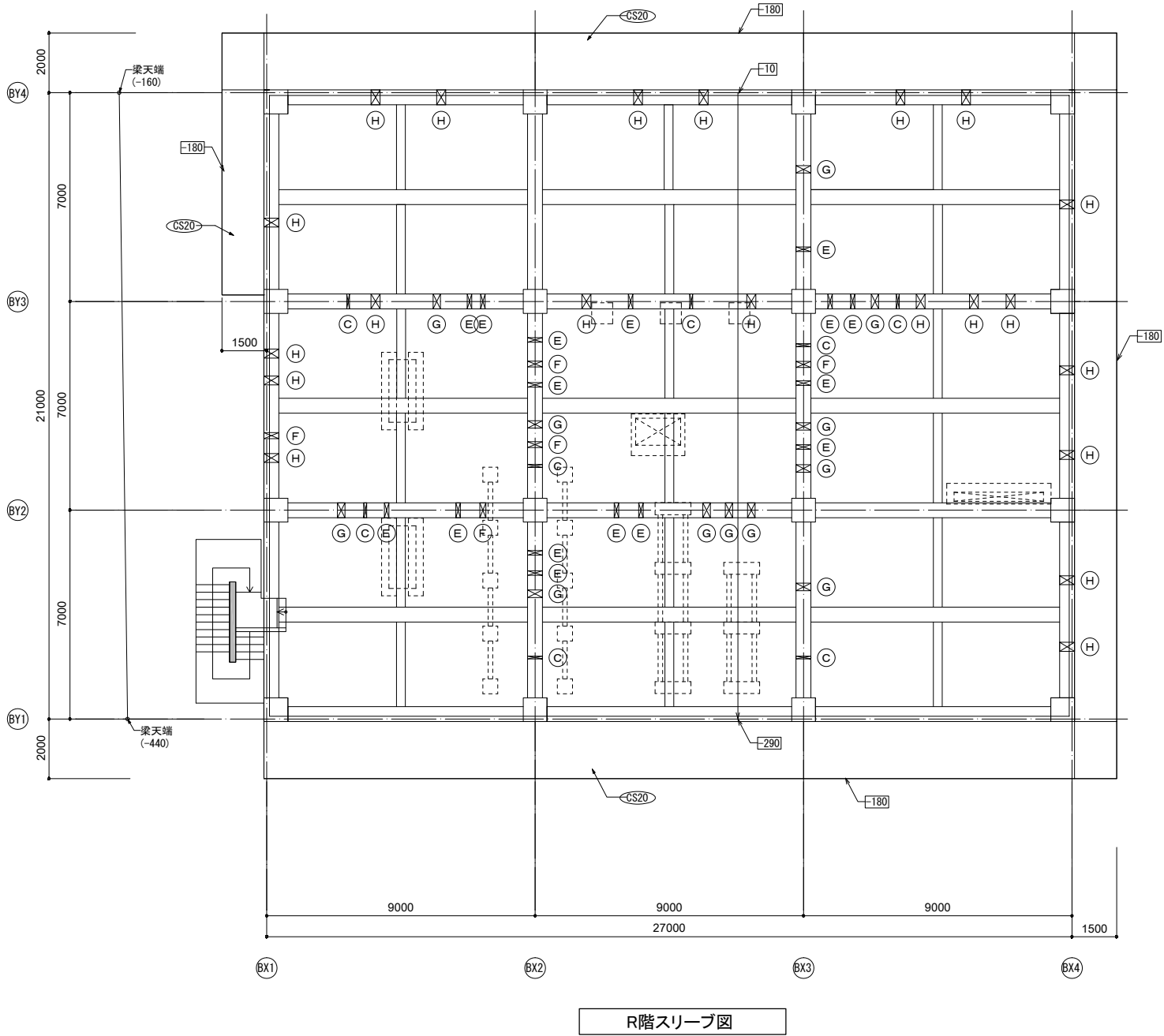
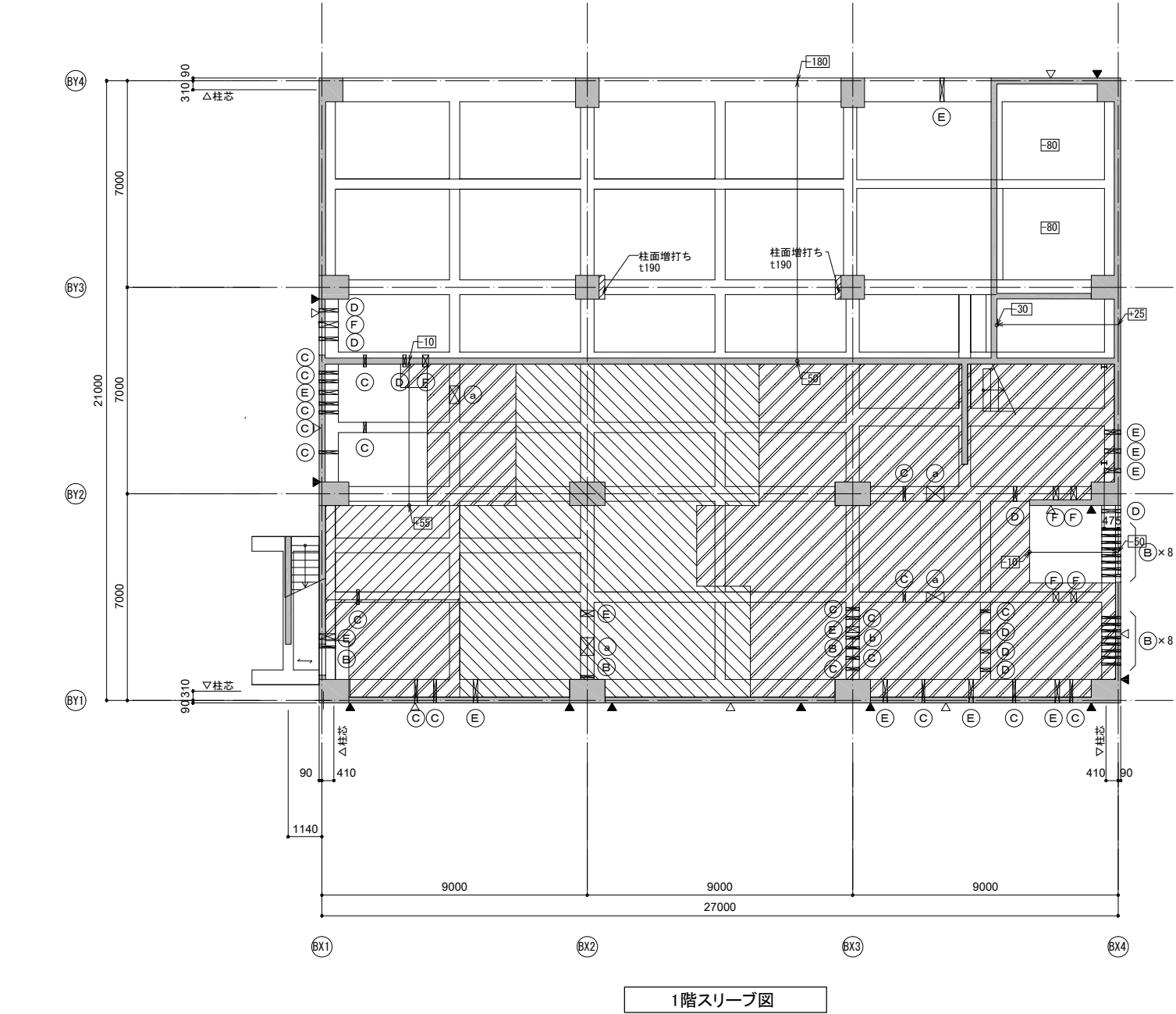


※B : 350以上かつB. PL幅+100とする。

特記無き限り下記による

1. ◀印は構造スリットを示す。
2.  印は、増打ちを示す。





特記なき限り下記による。

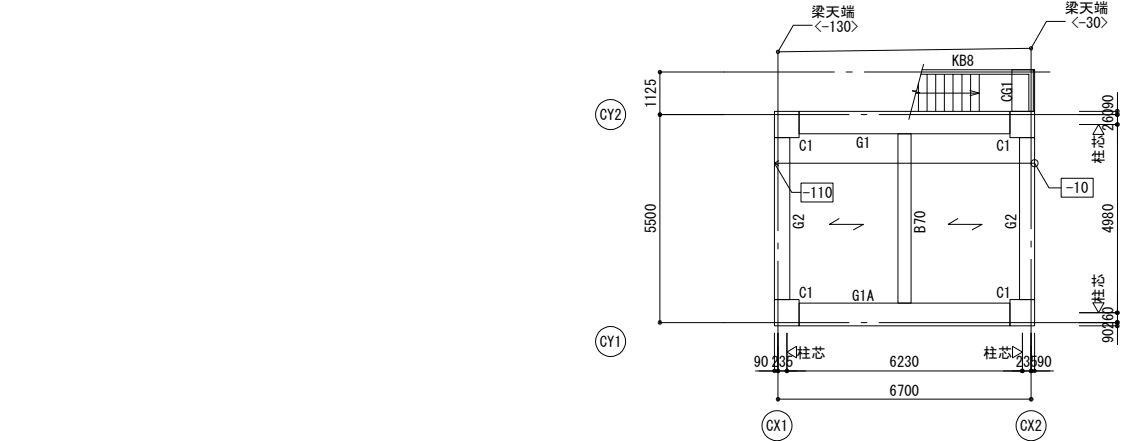
1. 図は参考とし、スリーブの位置、孔径は現場にて再度検討を行うこと。

2. 貫通孔補強は、S-516梁貫通孔補強標準仕様書による。

監督職員の許可を得て、工法の変更は可能とする。

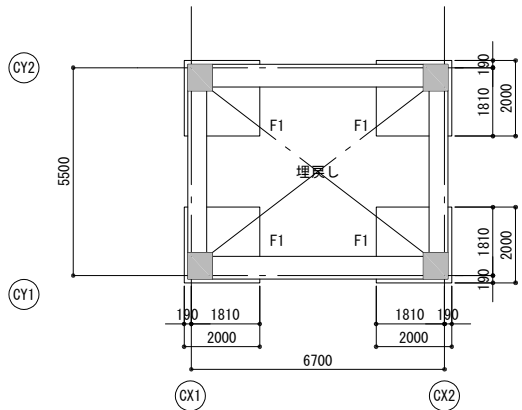
スリーブ径凡例									
符号	スリーブ径	符号	スリーブ径	符号	スリーブ径	符号	スリーブ径	符号	スリーブ径
Ⓐ	50Φ	Ⓓ	120Φ	Ⓔ	250Φ	Ⓚ	400Φ	Ⓐ	上部：人通孔 600Φ 下部：連通管 VP100Φ半割り
Ⓑ	75Φ	Ⓔ	150Φ	Ⓛ	300Φ	Ⓚ	450Φ	Ⓑ	上部：通気管 VP75Φ 下部：連通管 VP100Φ半割り
Ⓒ	100Φ	Ⓕ	200Φ	Ⓜ	350Φ	Ⓛ	600Φ		

竣工年月日	..	..		株式会社	技にこころを	DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造
監理者印				大建設計		PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	スリーブ図	DWG. NO
施工者印				一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(レ)404号				1:100 (A1) SCALE 1:200 (A3)		S-530



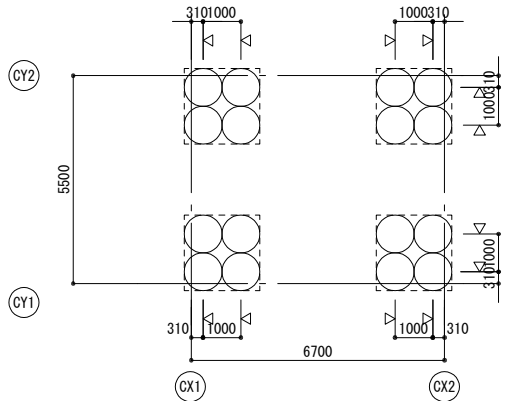
R階 伏図

- 特記無き限り下記による
1. スラブ符号はS15とする。
 2. □内は、C-RFLからのスラブ天端レベルを示す。
 3. ←印は、スラブの主筋方向を示す。



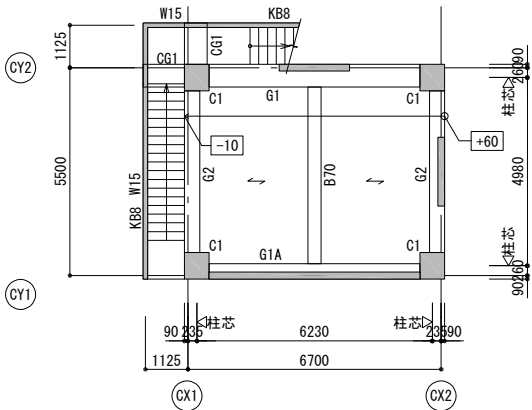
基礎 伏図

- 特記無き限り下記による
1. C-設計GL=T.P.+10.20とする。
 2. 基礎下端レベルは、C-設計GL-1500とする。



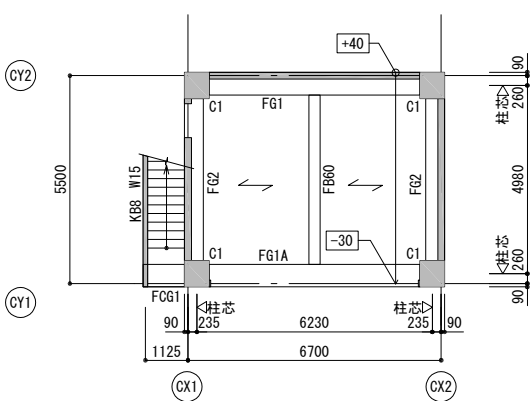
地盤改良 伏図

- 特記無き限り下記による
1. C-設計GL=T.P.+10.20とする。
 2. □は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする。
改良長：16.450(改良下端=C-設計GL-18.000)。
 3. <I印は、柱状改良芯を示す。
 4. 支持層は風化酸性凝灰岩層とし、改良天端レベルでの設計用長期地耐力は300kN/m²、短期地耐力は400kN/m²とする。
 6. 柱状改良に関して、試験施工を実施し、土質性状と電流値・トルク値の相関関係を調査する。
支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘進速度が保持できない、または貫入できない地点にて判断する。



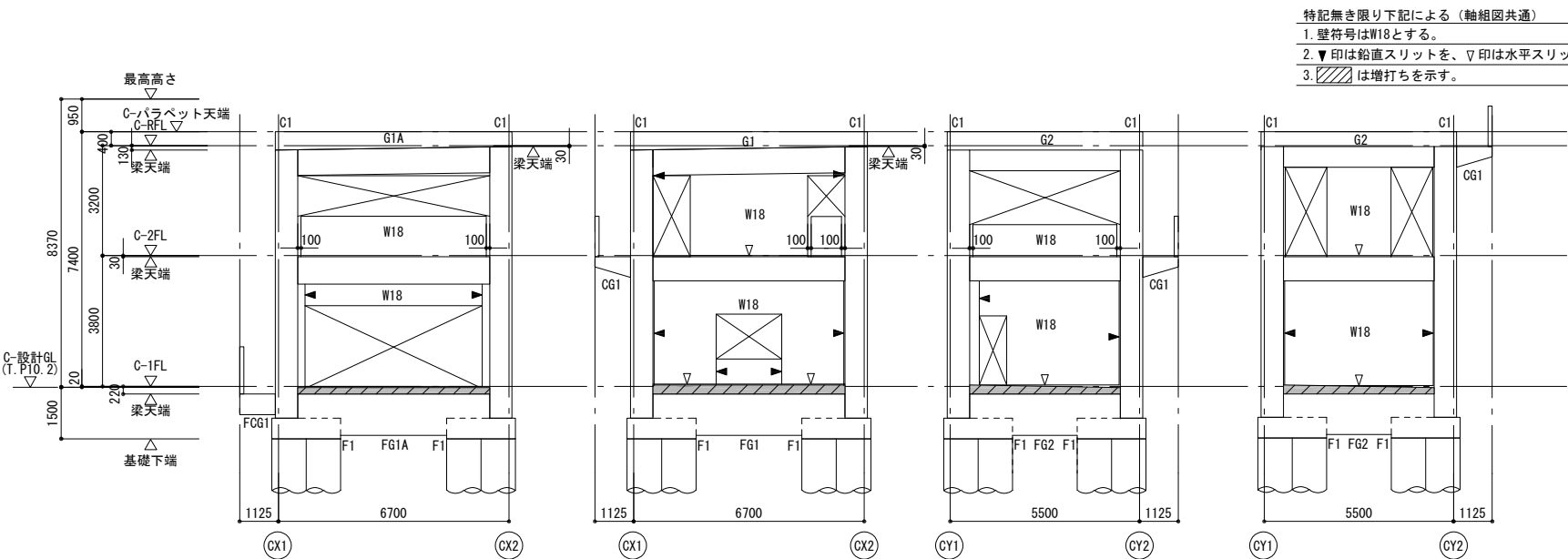
2階 伏図

- 特記無き限り下記による
1. スラブ符号はS15とする。
 2. □内は、C-2FLからのスラブ天端レベルを示す。
 3. ←印は、スラブの主筋方向を示す。
 4. 大梁および小梁天端レベルはC-2FL-30とする。
 5. 壁符号は、W18とする。



1階 伏図

- 特記無き限り下記による
1. スラブ符号はFS20とする。
 2. □内は、C-1FLからのスラブ天端レベルを示す。
 3. ←印は、スラブの主筋方向を示す。
 4. 大梁および小梁天端レベルはC-1FL-220とする。
 5. 壁符号は、W18とする。



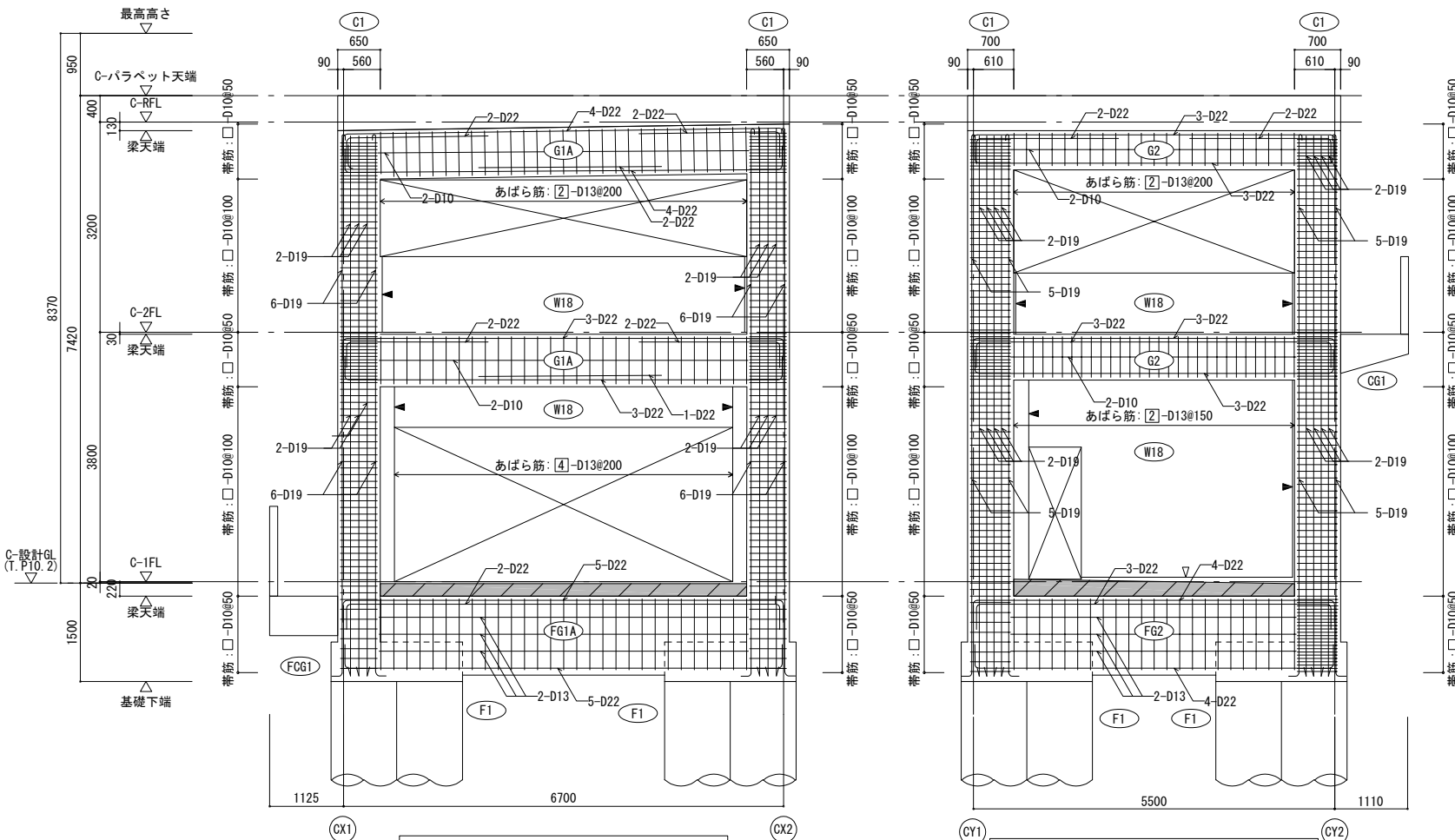
CY1通 軸組図

CY2通 軸組図

CX1通 軸組図

CX2通 軸組図

- 特記無き限り下記による（軸組図共通）
1. 壁符号はW18とする。
 2. ▼印は鉛直スリットを、▽印は水平スリットを示す。
 3. ▨印は増打ちを示す。



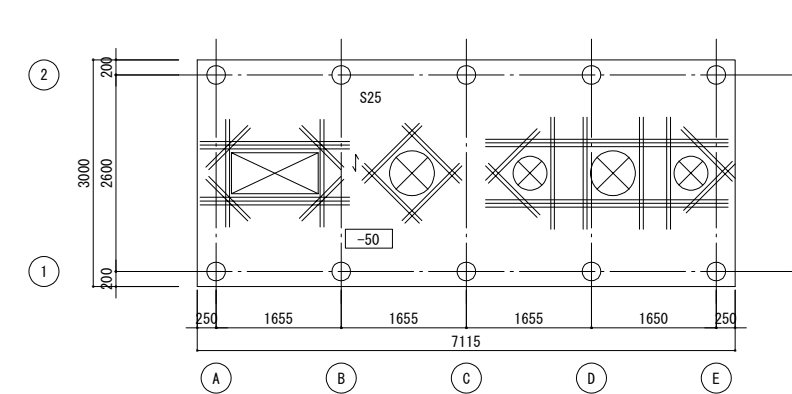
CY1通 架構配筋図 1:50

CX1通 架構配筋図 1:50

- 特記無き限り下記による
1. ▨印は構造スリットを示す。
 2. ▨印は、増打ちを示す。

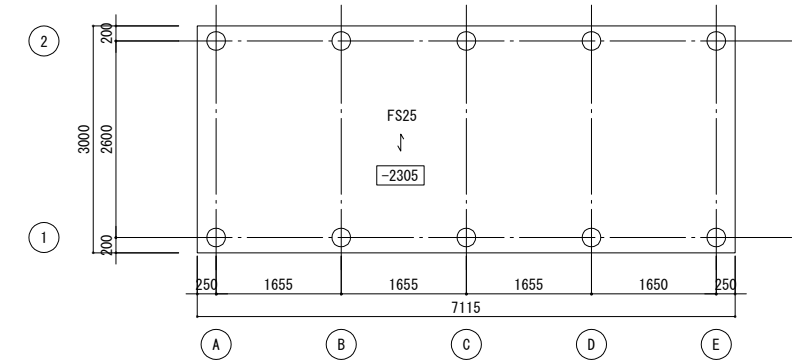
竣工年月日	..	..	..
監理者印	..	..	..
施工者印	..	..	..

DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【消防】 構造
PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	訓練棟 伏図	DWG. NO S-551
		SCALE 1:100 (A1) 1:200 (A3)		



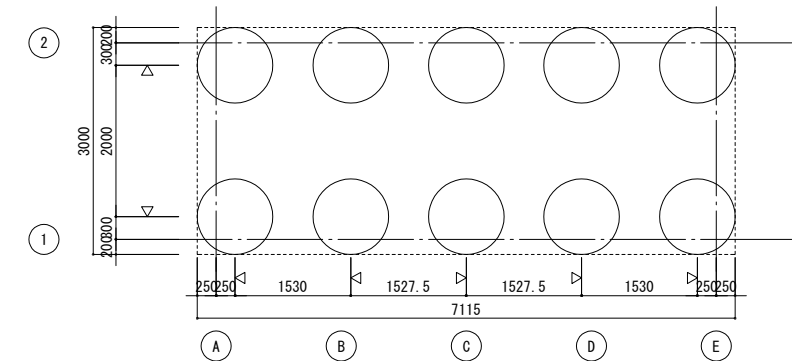
浄化槽 頂版 伏図

特記無き限り下記による
1. 内は、B-設計GLからのスラブ天端レベルを示す。
2. 印は、スラブの主筋方向を示す。



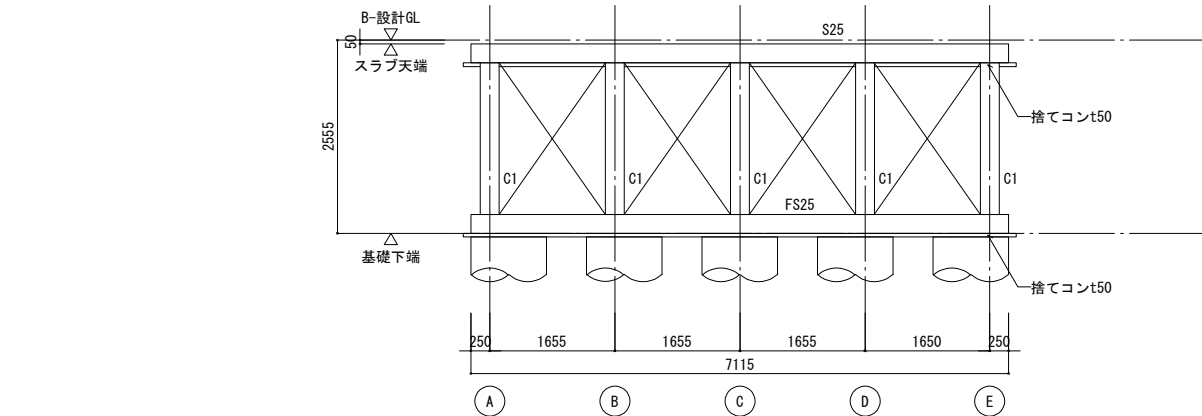
浄化槽 基礎 伏図

特記無き限り下記による
1. 基礎スラブ下端レベルは、B-設計GL-2555とする。
2. 内は、B-設計GLからの基礎スラブ天端レベルを示す。
3. 印は、スラブの主筋方向を示す。

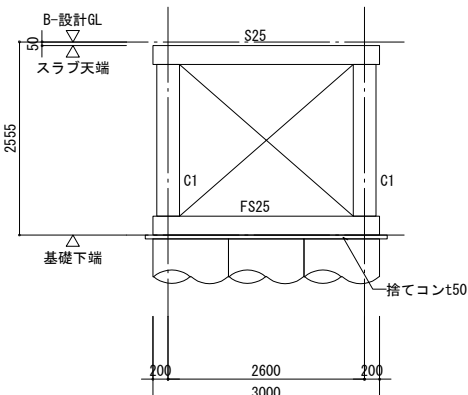


浄化槽 地盤改良 伏図

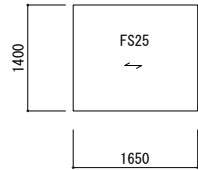
特記無き限り下記による
1. B-設計GL=T.P.+10.12とする。
2. は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする
改良長：4.895(改良下端=B-設計GL-7,500)。
3. <1印は、柱状改良芯を示す。



1,2通 軸組図

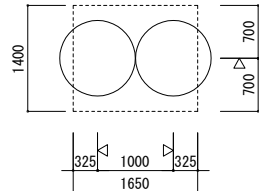


A, B, C, D, E通 軸組図



浄化槽機械室 基礎 伏図

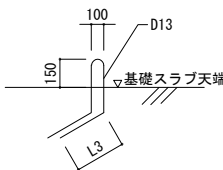
特記無き限り下記による
1. 基礎スラブ下端レベルは、B-設計GL-150とする。
2. 地業は、捨てコン t50とする。
3. 印は、スラブの主筋方向を示す。



浄化槽機械室 地盤改良 伏図

特記無き限り下記による
1. B-設計GL=T.P.+10.12とする。
2. は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする
改良長：7.300(改良下端=B-設計GL-7,500)。
3. <1印は、柱状改良芯を示す。

浮上り防止具アンカー図



共通事項

■使用材料	
コンクリート	普通コンクリート Fc24
	品質基準強度 Fq=Fc+S
スランブ S=15cm	
鉄筋	D10~D16 SD295
柱状改良	1. 支持層は礫質土層とし、改良天端レベルでの設計用長期地耐力は70kN/m ² 、短期地耐力は140kN/m ² とする。 2. 柱状改良に関して、試験施工を実施し、土質性状と電流値・トルク値の相関関係を調査する。 支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘進速度が保持できない、または貫入できない地点にて判断する。

スラブリスト

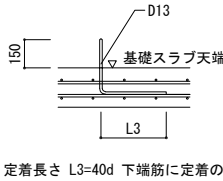
特記無き限り下記による
1. 巾止め筋は 1-D10/m²とする。

符 号	厚 さ	位 置	主筋方向	配筋方向	備 考
S25	250	上端筋	D13@200	D13@200	地業 捨てコン t50
		下端筋	D13@200	D13@200	
FS25	250	上端筋	D13@200	D13@200	地業 捨てコン t50
		下端筋	D13@200	D13@200	

柱リスト

符 号	C1
断 面	
柱 径	φ 250
主 筋	4-D13
帯 筋	○-D10 @100
備考	

開口補強筋の定着要領



柱主筋配筋要領

